

'80



# 目次

別府市民憲章	1
発刊の意義	2
地勢・気象・市花など	3
別府市のあゆみ	4
そして今、別府市は	6
恵まれたこの自然を大切にしたい	8
湯けむりのまち こんな所あんな話	10
私たちの別府をつくる	12
別府市が目指す都市像・54年度重点施策	16
観光の振興	18
交通体系の整備	19
都市基盤の整備	20
生活環境の整備—緑地公園—	21
—住宅—	22
—上・下水道、ごみ処理—	23
福祉の充実 —児童・母子・老人福祉—	24
—その他の社会福祉—	25
—保健、衛生、医療—	26
教育文化の充実—学校教育—	27
—社会教育—	28
—社会体育—	29
防災安全の充実	30
広域施設の充実	31
産業経済の振興—竹産業—	32
—商業—	33
別府市の未来に向けて	34
市民とともに歩む市政	36
行政機構図	38
市民の声を反映する議会	39
別府市街図	40
べっぴん—昨日・今日・明日—	41
グラフで見る別府市	45
別府のうた	46
小説の中の別府	47
市議会議員名簿	48

た  
別な  
を護

# 別府市民憲章



わたしたちは、海と山とにかこまれた美しい自然と、昼夜の  
別なくこんこんと湧きいづる温泉のまちに住む市民であること  
を誇りとし、魅力あふれる観光のまちづくりを目指しています。

わたしたちの市民憲章は次のとおりです。

1. 美しい町をつくりましょう。
2. 温泉を大切にしましょう。
3. お客さまをあたたかく迎えましょう。

(昭和43年1月制定)



## ごあいさつ

波おだやかな別府湾を擁し、背後に広々とした高原を控える別府市は、全国に誇り得る温泉資源をはじめとして多彩な自然の恩恵を享受しております。

この豊かな自然に恵まれた地が多くの人々の保養の場となることを願い、「観光立市」を行政の基幹として諸施策を進めてまいりました。その結果、近年は年間1,300万人もの人々を迎える一大観光都市に成長し、市勢も順調に進展しております。

今後は観光動態の変化など諸情勢の推移を的確に把握し、より親しみやすく魅力ある街づくりに励む所存でございます。もちろん、キメの細かい行政サービスとあらゆる角度から検討を加えた生活環境の整備が、その基調となることは言うまでもございません。

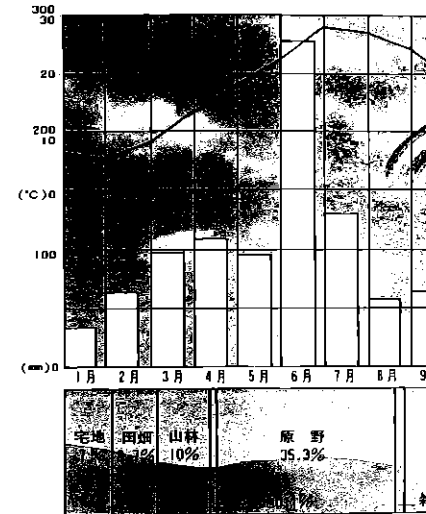
この市勢要覧は、長期的な展望のもとに都市づくりに取り組む本市の姿を紹介したものであります。これにより本市の現況をご理解していただき、参考にいただければ幸いです。

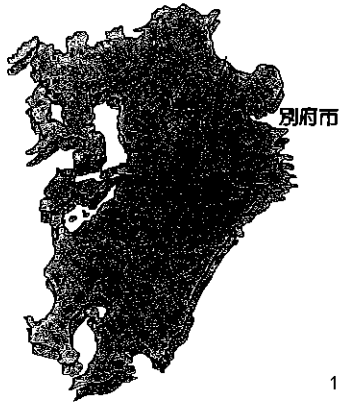
昭和55年3月

別府市長 **脇屋長可**



別府市全景

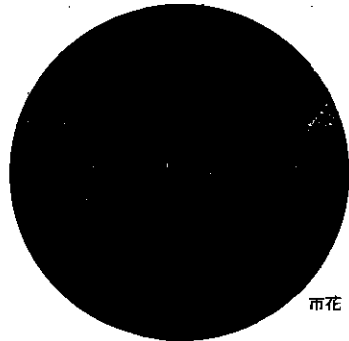
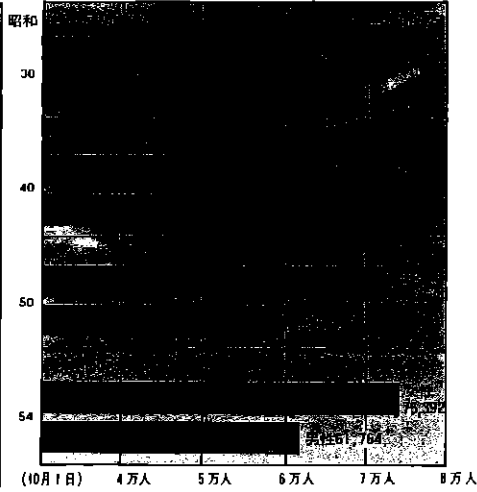
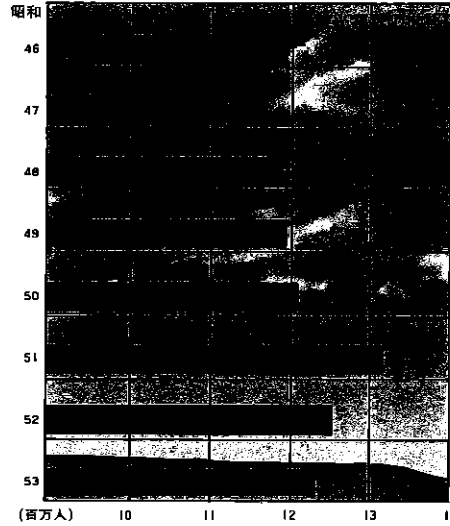
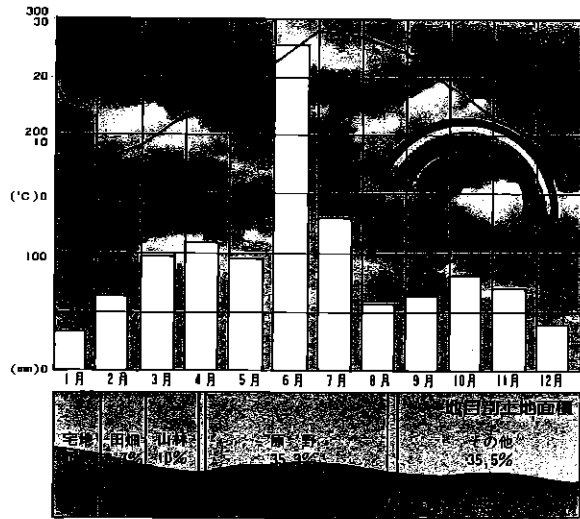




別府市

地勢と気象

本市は東経131°26'56"、北緯33°17'12"に位置しています。国東半島と佐賀関半島にはさまれた波静かな別府湾に面し、阿蘇火山系に属する鶴見岳を背にして開けた東西13km、南北14km、面積125km<sup>2</sup>の街です。秀峰、山上湖、滝、溪谷、畑、そして温泉と豊かな自然の恵を受け、年間平均気温15～16℃、年間平均降雨量1,700mm前後の温和な気候です。



市花 おおむらさき(ツツジ科) 昭和48年制定

- 別府市の主な行事
- 一月 別府元日マラソン大会
  - 別府寒中水泳大会
  - 西日本正月別府テニス大会
  - 二月 別府大分田日マラソン大会
  - 四月 別府温泉まつり
  - 別府竹の感謝祭
  - 五月 ヨットレース大会
  - 七月 別府夏まつり
  - 住吉神社海上海御祭
  - 別府リン「園開き
  - 八月 奥別府サマーフェスティバル
  - 志高湖火まつり
  - 浜脇薬師まつり
  - 九月 鉄輪温泉湯あみまつり
  - 十月 別府竹製品新作発表会
  - 十一月 畑屋熊八翁碑前祭
  - 郷土民芸ふささとまつり
  - 十二月 別府市さばんまつり

別府市全景

# 別府市のあゆみ

**明治** **大正** **昭和**

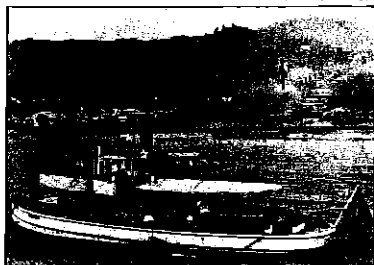
元 年 4 月  
4 年 7 月  
5 年 7 月  
6 年 5 月  
7 年 12 月  
8 年 3 月  
11 年 11 月  
26 年 4 月  
33 年 4 月  
34 年 1 月  
35 年 2 月  
39 年 4 月  
40 年 9 月  
41 年 11 月  
42 年 6 月  
43 年 3 月  
44 年 7 月  
45 年 9 月  
6 年 3 月  
9 年 10 月  
11 年 6 月  
13 年 1 月  
14 年 2 月  
3 年 10 月  
6 年 10 月  
10 年 9 月  
20 年 10 月  
22 年 4 月  
24 年 6 月  
25 年 5 月  
27 年 2 月  
31 年 4 月  
32 年 10 月  
33 年 3 月  
35 年 2 月  
36 年 11 月  
38 年 4 月  
39 年 10 月  
40 年 9 月  
41 年 8 月  
43 年 1 月  
44 年 10 月  
45 年 4 月  
46 年 3 月  
47 年 4 月  
48 年 4 月  
50 年 5 月

大分勤勞身体障害者体育施設完成  
別府市身体障害者福祉センター完成  
老人の村開村  
別府速見地域市町村圏事務組合発足  
市制五〇周年記念式典、別府市花制定  
学校給食センター完成(中学校給食開始)  
別大電車運行廃止  
老人憩の家開設  
扇山老人ホーム開設  
し尿処理施設「香木苑」完成  
婦人会館「なでしこ」開設  
北浜交差点地下道完成  
国民宿舎「しだか」完成  
別府市民憲章制定  
日置本線電化開通

第二回国民体育大会開催  
熱海市と姉妹都市提携  
北浜海岸埋立完成  
別府民衆駅高架開通  
九州横断道路(やまなみハイウェイ)開通  
国際観光会館完成  
県立芸術短大開設  
市立図書館新築完成  
原爆センター開設  
両陛下植樹祭に御臨席  
新市庁舎完成  
目衛隊駐とんする  
整設園開設  
温泉プール完成  
米駐留軍別府市より撤退  
日出町、挾間町、南端村の一部別府市に編入  
第一回別府毎日マラソン大会開催  
市営競輪場開設  
天皇陛下御巡行  
公民館設置  
市長公選になる  
米占領軍先遣隊別府市駐留  
石垣、朝日、亀川町、別府市に合併  
別府球場完成  
商工会議所開設  
別府、龜川間電車開通  
鶴見園遊園地開設  
別府市教育会設置  
市制施行  
京大地球物理学研究施設開設  
別府図書館開設  
第一回国勢調査実施  
別府町営水道完成  
県立物産陳列所開設  
橋樑完成  
浜脇駅開設(現東別府駅)  
別府駅開設  
私立別府女学校設立  
電話開通  
亀川海軍病院開設(現国立別府病院の前身)  
電燈が初めて灯る  
別府、浜脇町合併、別府町と称する  
別府工業徒勞学校開設(現県立大分工業高校の前身)  
別府学校に幼稚園設置  
別府、大分間電車開通  
別府、浜脇両村、各々町制施行  
郡町村制施行、別府、浜脇村は速見郡役所に属する  
別府、朝見両村合併、別府村と称する  
別府学校開設  
大阪開商社汽船初めて就航  
郵便取扱所開設  
日田線は大分、小倉両県に分割され、別府は大分に属する  
大分県設置  
日田県別府支庁設置



明治43年の別大電車



明治中期の別府港と家並み



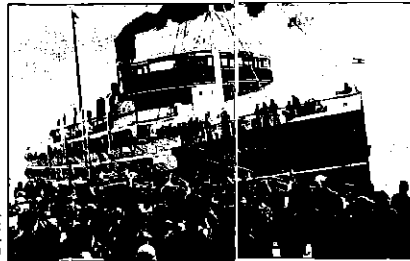
明治三二年の朝見神社参道



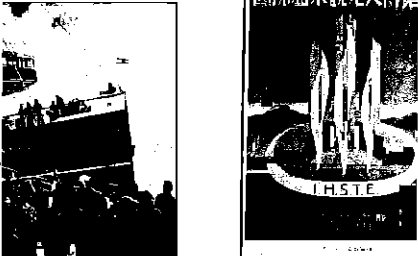
大正3年別府湾で捕獲した鯨



大正中期の紫石温泉



昭和初期の定期客船



「むらさき丸」昭和12年の国際温泉観光大博覧会ホ



昭和初期の流川通りとヒリケン



昭和初期の乙原高台とケーブルカー



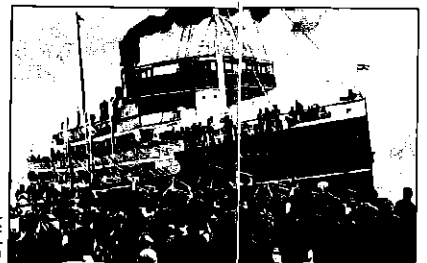
昭

和

35年4月	36年2月	36年11月	38年4月	39年10月	40年9月	41年8月	42年10月	43年1月	44年10月	45年4月	46年3月	47年4月	48年4月	49年7月	50年5月	51年4月	52年4月	53年1月	54年3月	55年10月
-------	-------	--------	-------	--------	-------	-------	--------	-------	--------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	--------

ハンググライダーイング日本選手権開催  
別府市民体育館着工  
別府消防本部新庁舎完成  
天皇陛下御在位五〇年記念公園用地買収  
勤労青少年ホーム「青雲」完成  
大平山小学校完成  
少年自然の家「おじか」完成  
中央浄化センター完成  
広域圏事業「藤ヶ谷清掃センター」完成  
陸上目術隊別府駐とんど地崩山新隊舎落成  
親切運動全市に展開  
別府観光シンボルマーク決定  
別府市総合基本計画策定  
広域圏施設ゴミ処理場完成  
南立石緑化植物園みどりの相談所完成  
日中友好別府市各界訪中団訪問  
広域圏施設秋草葬斎場完成  
温泉集中管理計画まとまる  
別府国際観光港五千トン級バース完成  
歳末たすけあいチャリティショー復活  
別府国際観光港に花時計完成  
第一回全国青樹祭、志高湖畔で開催  
亀川温泉天然砂湯復活  
由布、鶴見岳自然休養林施設開設  
崩山さくらの園植樹祭  
天皇陛下御在位五〇年記念公園の指定決まる  
別府夏まつり開催  
別府サマーフェスティバル開催  
独居老人看護人派遣制度誕生  
別府観光親善使節団ハワイ訪問  
別府市総合基本計画の策定着手  
終末処理場公共用地埋立造成工事完成  
別府市環境保全条例を制定施行  
広域市町村圏事務特別要綱老人ホーム「広寿苑」完成  
市民相談係を開設  
「市民の声を聴く会」始まる  
フェニックス産業総合センター大会開催  
大分勤労身体障害者体育施設完成  
別府市身体障害者福祉センター完成  
老人の村開村  
別府遠見地域市町村圏事務組合発足  
市制五〇周年記念式典、別府市花制定  
学校給食センター完成（中学校給食開始）  
別大電車運行廃止  
老人熱の家開設  
崩山老人ホーム開設  
し尿処理施設「春木苑」完成  
婦人会館「なでしこ」開設  
北浜交差点地下道完成  
国民宿舎「しだか」完成  
別府市民憲章制定  
日豊本線電化開始

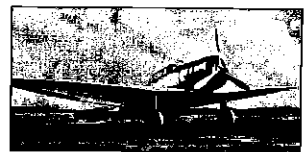
第二一回国民体育大会開催  
熱海市と姉妹都市提携  
北浜海岸埋立完成  
別府民衆駅高架開通  
九州横断道路（やまみハイウェイ）開通  
国際観光会館完成  
県立芸術短大開設  
市立図書館新築完成  
原爆センター開設  
両陛下植樹祭に御臨席



昭和の初期の定期客船



「むらさき丸」 昭和12年の国際温泉観光大博覧会ポスター



昭和18年の別府第2市民庁



昭和12年地獄を訪れたヘレンケラー女史



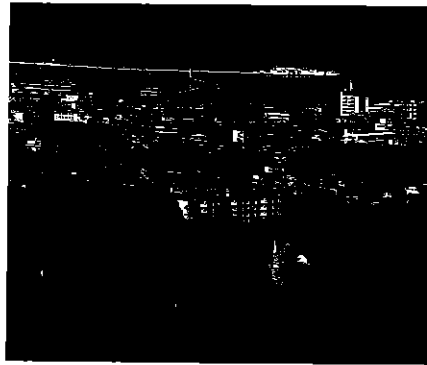
昭和25年に復活した納涼花火大会



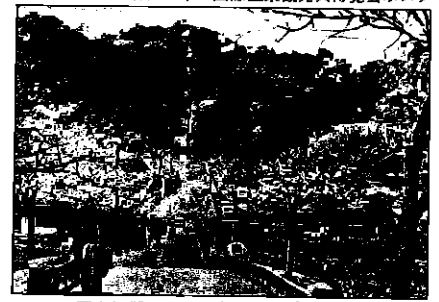
昭和26年に復活した女みこし



昭和三〇年頃の別府港



現在の別府市



昭和初期の乙原高台とケーブルカー

写真提供/安部威氏、宮本正美氏、井手野麗子氏、南小学校

そして今、別府市は……青い空の似あう街





# 青い空の似あう街。

季節を告げる風が軽やかに走り、雄大な自然が陽光に輝く別府は、全国各地から訪れる人々を暖かく迎えます。青空の下、口笛を吹きながら羽根を広げて自由に活動してほしい、そんな大きなつろぎの広場です。



# 恵まれたこの自然を大切にしたい。すべての



志高湖

猪の瀬戸高原など火山性の高原美をいたるところに展開しています。志高湖は鶴見岳の南麓、由布岳との鞍部に水をたたえる九州には珍しい山上湖です。白鳥が泳ぐなめらかな湖面にはボートが浮かび、湖畔は起伏に富んだ高原で、家族連れや若者達が健康的な一日を過ごすには最適な自然環境です。■見岳山頂からこの志高湖までは、ハンクグライダーの絶好のフライトエリアで、昭和五六年には第三回ハンクグライダーイング世界選手原の間にあり、約二キロにわたって狭間即との境界をなす美しい峡谷です。水に弱い凝灰岩が複雑な水廻をつけて四く八の狭い谷となり、その中に深淵、早瀬、飛瀑が見られ、自然の巧みなる芸術に目を奪われます。

やまなみハイウェイから安心院に抜ける県道に入ると、湯山高原を経て十文字高原高原が開けます。標高四六〇以上のこの高原一帯には樹木がなく、見わたすかきりの大平原。南田の陽光に輝くなららかな山塊は美しく、展望台からの市街の眺望もすばらしい所です。

秀麗な自然に恵まれています。この自然を私たち市民のためだけでなく、別府を訪れるすべての人のためにも大切にしていきたいと考えています。



由布川峡谷



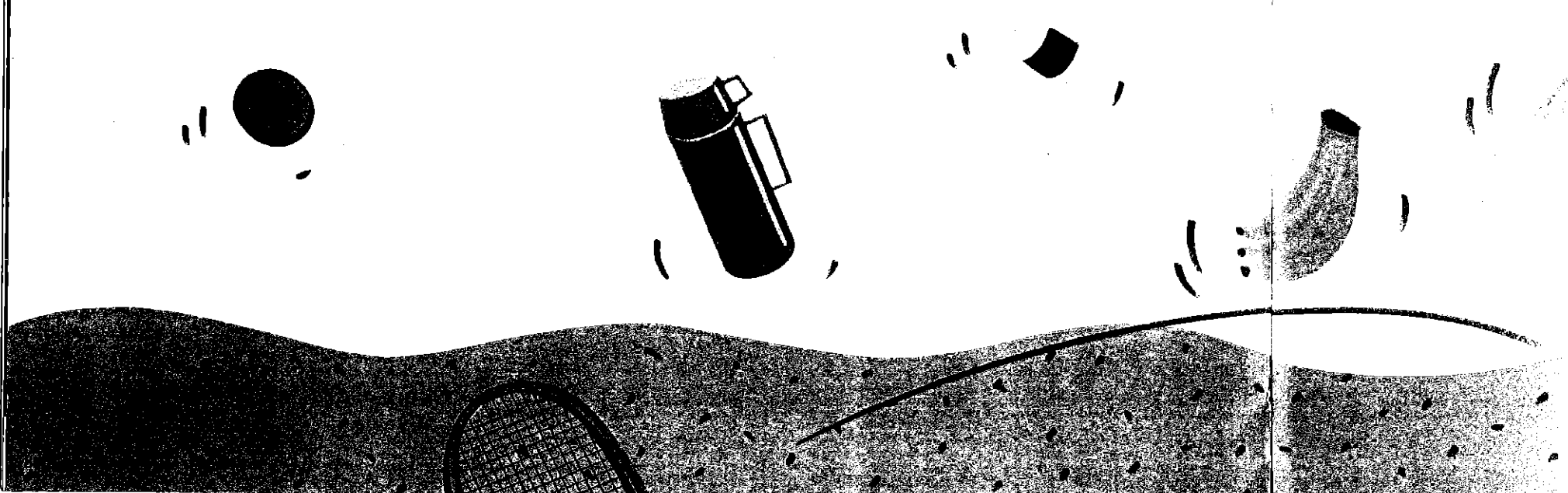
別府湾のヨット

原観光港をはさんで上人ヶ浜公園が続き、潮の香を満喫する憩の広場になっています。北浜公園の近くには、大小様々なヨットを係留するヨットハーバーがあり、休日には紺碧の海に白帆が浮かぶ風景を見ることが出来ます。このように私たちの街別府は、山、高原、海などの

る猪の瀬戸高原があります。田布川峡谷は、志高湖と城島高

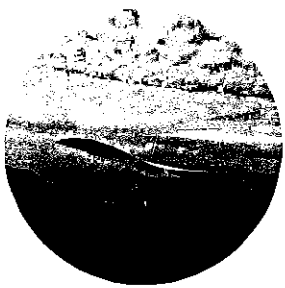


鶴見



# 然を大切にしたい。すべての人のために。

別府市街から背後の山々を望むと、まず目をひくのがなめらかなスロープを描く懸崖です。頂を要とし、腰を広げたような形をしている「ヤマガタ」呼ばれています。このように釣り鐘を伏せたような山容でそびえるのが、標高二七五メートルの鶴見岳。現在はロープウェイが麓と山頂を結び、春のミヤマキリシバ、夏の深緑、秋の紅葉、冬の霧水と四季それぞれの景観を楽しめますが、阿蘇火山系に属する休火山で、今も山頂西側の火口から蒸気が立ち昇り、湯の面別府の心算を示しています。やまなみハイウェイは、この鶴見岳の麓を通り、湯布院、飯田高原、牧の



戸峠を経て阿蘇に至る九州の代表的な観光道路で、別府市内の沿道は志高湖周辺の高原や城島高原、猪の瀬戸高原など火山性の高原美をいたるところに展開しています。志高湖は鶴見岳の南麓、由布岳との数郡に水をたたえる九州には珍しい山上湖です。日鷹が泳ぐなめらかな湖面にはボートが浮かび、湖畔は起伏に富んだ高原で、家族連れや若者達が健康的な一日を過ごすには最適な自然環境です。鶴見岳山頂からの志高湖までは、ハンクグライダーの絶好のフライトエリアで、昭和五六年には第三回ハンクグライダーチャンピオン世界選手権大会の開催が決まり、各団のフライヤーが腕を競うことになって

ハンクグライダー

います。ここから約二キロ離れて伝説に語りつがれている神楽女湯があり、なみ歩くとリンゴ園に出ます。高原性の涼しい気候のため、七月から十一月までリンゴ狩りが楽しめます。志高湖からやまなみハイウェイをもう少し登ると、城島高原が広がっています。緑のじゅうたんを思わせる草原に、赤いサイロがたち乳牛が放牧されて、のどかな牧歌的雰囲気が漂っています。約三三〇万平方メートルの大草原を利用したレジャーランドでは、澄みきつた空気を胸一杯に吸いこんで、のびのびとした一日を楽しめます。この先には、動植物の宝庫といわれる

猪の瀬戸高原があります。田市川峡谷は、志高湖と城島高原の間にあり、約二キロにわたって狭間町との境界をなす美しい峡谷です。水に弱い凝灰岩が極端

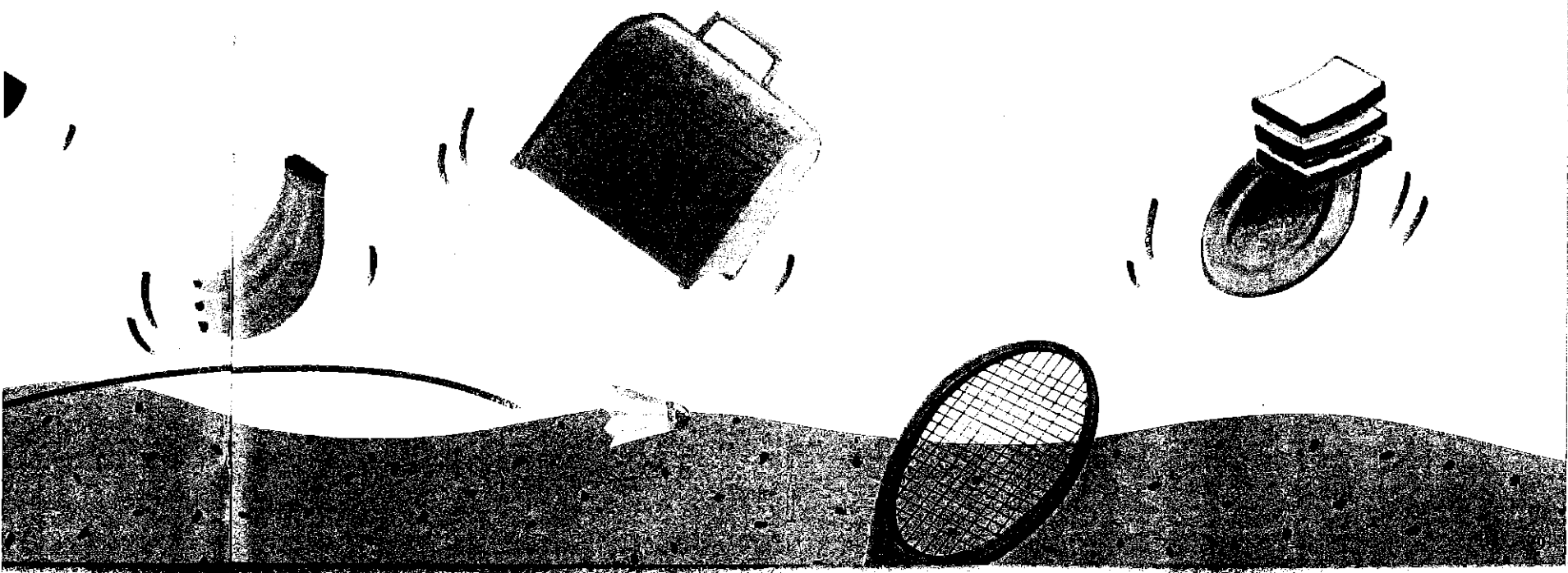


城島高原



鶴見岳の樹水

が続き、湖の香を満喫できる際の広場になっています。北浜公園の近くには、大小様々なヨットを保管するヨットハーバーがあり、休日には紺色の海に白帆が浮かぶ



海浜に、街中に、山の手に、幾多の湯けむりが立ち昇る別府市は、名実ともに全国一の温泉地です。1日の湧出量約10万ℓ。利用泉源約3,800ヵ所、そして世界薬利学会公認の泉質11種のうち10種類を数えてバラエティーに富み、古来、天下の名湯の名をほしいままにしてきました。

市内の温泉は古くから8地区に分けられ、それをひと口に別府八湯と呼んでいます。浜脇温泉は、明治・大正時代は別府の中心地として栄えました。連日連夜、人の往来でごったがえし、三味線のさんざ



めきもにぎやかだった当時の繁昌ぶりは、今お語り軍になっています。高地にある観海寺温泉は、眺望のよさと素朴な味わいで愛されてきましたが、現在は近代的なホテルが連ち並び、お湯をふんだんに

利用したレジャー施設もできて趣を一変しました。さらにこの上にある堀田温泉は、古くは旅人の汗を流す温泉場として人気



を集めました。現在は宅地造成が進んでいます。別府温泉は、別府駅を中心とした一帯で、商店街や飲食店街が近く、現在の別府市の中心的温泉地です。旅館も高層のホテルに変わりましたが、ネオンが華やかに点滅する繁華街のまん中に、堂々とした偉容を誇るように腰をすえる竹瓦温泉は、明治の気骨が感じられるようです。鉄輪温泉は、昔ながらの湯治場風景をもっとも

よく残す所です。今も瓦ぶきの旅館が多く、「貸間あります」の木札がかかる路地裏を浴衣を着たお年寄りが行き交う姿など、ノスタルジアを誘う温泉情緒がそこはかとなく漂っています。明礬温泉は、疏

質のにおいがたちこめる落ち着いた温泉場で、ワラぶきの湯の花小屋の立ち並ぶ独特の風景を見せています。柴石温泉は、喧騒を離れた山間に湧く温泉で、湯気が立ち昇る溪流沿いにある打たせ湯で知られています。これは、お湯をパイプに通して高さ数メートルの所から落とし、肩や腰にあてて痛みをとるもので、古くから行われてきた療法のひとつです。亀川温泉は、市北端の海辺にある温泉地で、砂湯が名物です。往時は別府湾沿いの処々に見かけられましたが、今は天然砂湯としてはここに残るだけになりました。

このように、別府の温泉場としての表情は奥深く様々です。近代的なホテル群のあいまに、昔からの温泉情緒が大切に守り継がれ、古くて新しい魅力があふれているのです。

温泉で汗を流したあとの散策は、まず地獄めぐりから。地下300メートルあたりから、100℃前後の噴気、熱湯、熱泥が様々な様相で噴出し、他に見られない奇観を呈しています。その名も海、山、カマド、鬼山、白池、金龍、血の池、龍巻、坊主と、聞くからに不気味なものです。見るぶんには安全で、色彩、造形の壮観さに驚かされます。天満町にある大仏は、大正時代末期に造られたもので、奈良東大寺の大仏より10倍も高く、坐像では日



本一の高さといわれます。石垣原古戦場年の関ヶ原の合戦に際し、豊臣方の大友の黒田軍が九州の大勢を決めるといふ合所です。市南部の永石通りを登りつめた所には、別府市の総氏神八幡朝見神社があります。大友氏初代能直が創建した

あんな話

ニミなる所 ままぢ

という古社で、うっそうと繁る社叢の中でひとときお目だつ楠は、樹高30メートル、胸高幹囲7メートルもあり、樹齢1,000年といわれています。

別府駅周辺もふらり歩きの楽しい所。沿いになつ別府タワーは、頂上から別府に収め、空中温泉にも妙味があります。

着いた温泉場で、ワラ独特の風景を見せていた山間に湧く温泉で、打たせ湯で知られて、ブに通して高さ数倍で痛みをとるもので、ひとつです。亀川温泉地で、砂湯が名物です。かけられましたが、今

としての表情、ホテル群のあ、大切に守り継、ふれているの、策は、まず地、なりから、100、様々な様相で、を呈してい、ド、鬼山、坊主と、が、見るぶ、壮観さに驚、は、大正、奈良東大、像では日



本一の高さといわれます。石垣原古戦場は、慶長5年の関ヶ原の合戦に際し、豊臣方の大友軍と徳川方の黒田軍が九州の大勢を決めるという合戦を演じた所です。市南部の永石通りを登りつめた所には、別府市の総氏神八幡朝見神社があります。大友氏初代能直が創建した

# 湯か片むりの ニんな所 ままち

という古社で、うっそうと繁る社叢の中でひときわ目だつ楠は、樹高30m、胸高幹囲7mもあり、樹齢1,000年といわれています。

別府駅周辺もふり歩き楽しい所。国道10号線沿いにたつ別府タワーは、頂上から別府市内を一望に収め、空中温泉にも妙味があります。流川通りの

入口にある“ふるさと館”は、古い時代の農具や生活具、また温泉のしくみなどを展示するもので、是非立ち寄って見学したい施設です。ここをちょっと

上ると古いれんの骨とう品店が点在し、思わぬ掘り出し物にめぐりあうかもしれません。駅前一带は土産品店などの商店街が並び、これ

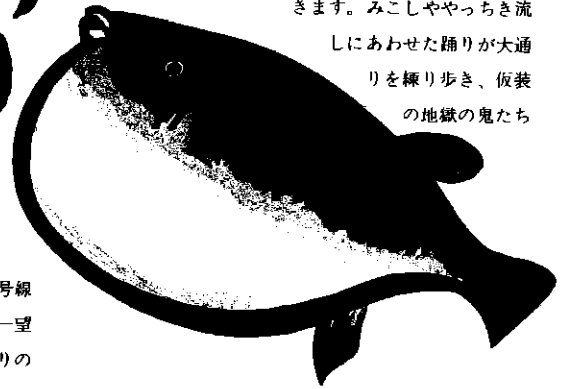


と背中あわせに夜のネオンがまぶしい飲食店街が続いています。

やまなみハイウェイ沿いの奥別府や、流川通りを登りきった所にあるレジャーランドは、様々な遊戯施設が用意されたおとぎの国です。さんさんと降る光を浴びて、一日中たっぷり楽しめる憩の広場

です。また、扇山の山麓にあるゴルフ場も、保養を兼ねた多くのゴルファーを集めます。別府湾では、夏から秋にかけて漁火が美しく、近年は別府の風物詩になりました。これは湾内に群泳するイカ釣りの灯で、好調なときは200匹ほどもあがります。

別府の春は、4月1日からの温泉まつりで幕が開きます。みこしややっつき流しにあわせた踊りが大通りを練り歩き、仮装の地獄の鬼たちが



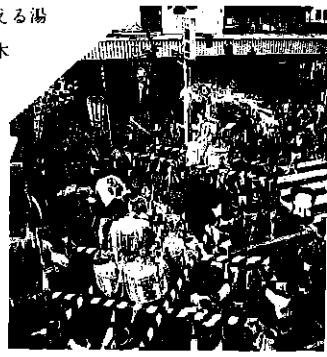
籃胎漆器のほか、温泉の精ともいえる湯の花、民芸木工玩具の木でこ、またザボン漬け、別府温泉しぼり、つけ細工、袖ねりなど多種多様です。

すみずみまで自分の足で確かめてほしい、別府はそんな楽しい街なのです。



も浮かれ、観光客もまじえて大いに楽しめます。夏は奥別府で開催されるサマーフェスティバル。8月の第1日曜日から2週間は、志高湖湖畔の火祭り、城島高原のジャズイン、鶴見山のハングライダー大会と、若者達の熱気が舞い昇ります。このほか、2月の別大毎日マラソン、5月のヨットレースなど人気あるイベントが豊富です。

“別府なる音になるみの河豚食うて命肥して御代の初春”と徳富蘆花が歌ったように、ふく料理は別府の冬を代表する味覚です。これに劣らないのが春から夏にかけての城下か



# 私たちの別府をつく

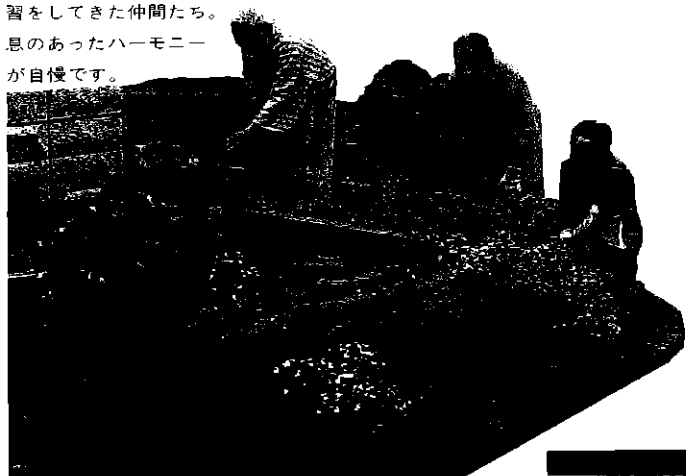
合い言葉は「豊かで美しく健やかに」

私たちは、美しい街で心豊かに健康的な生活を送ることを願って、「ふるさとづくり運動」を行っています。各世代のコミュニティの場を大きく広げて、市民総参加のもとに明るい別府を育てたいと考えています。



市民吹奏楽団 豊かな情操を、と文化活動もさかんです。少年少女のための音楽教室をはじめ、市民吹奏楽団も活躍中。学習や仕事の余暇に、同じ趣味のもとに集って練習をしてきた仲間たち。

息のあったハーモニーが自慢です。



花壇の手入れ 草花が季節を告げて咲き乱れる町は、日々の生活に追われる現代人に貴重なおいのひと時を与えてくれます。特によく手入れのゆきとどいた花壇は、育ててきた人々の暖かさが伝わります。美しい風景をありがとう。



少年サッカー こちらは少年サッカーチーム。体は小さくてもボールを追う目は鋭い。がんばれ、未来の釜本、ペレ!



ママさんサッカー 80年代、サッカーの楽しさを女性に自信のあるママさんがチーム。ふだんは家事に忙しい。グラウンドに出れば別人。子供で男性顔負けのハッスルプレイ。



野球 まずは、育ててきた野球。各所へかに行われ、休日を追う姿が各所の運動。町内や団地。されたチームは、試合を行うの親睦も大切なメリッデス。

# の別府をつくる

## 「豊かで美しく健やかに」

豊かな生活を送ることを願って、  
参加のもとに明るい別府を育て

「ふるさとづくり運動」を行っています。各世代のコミュニ  
たいと考えています。



**ママさんサッカー** 80年代は女の時代？  
サッカーの楽しさを女性にも、と体力に  
自信のあるママさんがチームを作りました。  
ふだんは家事に忙しい主婦もグラ  
ウンドに出れば別人。子供の声援を受け  
て男性顔負けのハッスルプレーが続きます。



**野球** ますます人気が高まっ  
てきた野球。各種の大会もさ  
かんに行われ、休日には白球  
を追う姿が各所の運動場で見  
られます。町内や団地で結成  
されたチームは、試合を通じ  
ての親睦も大切なメリットです。



**公園** 公園は私たちの憩の場、語らいの場。  
市民生活に欠くことのできない空間です。花  
と緑を大切に、そして次に訪れる人のために  
美しく、がエチケット。

**歩こう会** すっかり定着した歩こう会。四季の自然をたずねて家族連れで、仲間で参加  
する人が増えています。歩くことはスポーツの原点、自分の足で各地をまわれる充足感  
と、心地よい疲労がストレスを解消してますます好評です。

# 私たちの別府をつくる



ゲートボール お年寄りのアウトドアスポーツとして、今爆発的な人気です。フランスのクリケットを改善したルールで、適度な運動量と楽しみながらプレーできる点に人気が集。別府市は特にさかんで、将来は保養をかねた全国のプレーヤーのメッカになりそうです。

剣道 掛け声も勇ましく元気にぶつかりあう豆剣士たち。日本古来の武道も子供たちに受け継がれ、氣息を整えて踏み込む気合は大人も圧倒されるほどです。



ジョギング 健康は自分の意志で、とジョギングがブームです。早朝のすがすがしい空気を吸って走る気分は格別で、今朝も各所でマイペースのランナーが元気に走る姿が見られます。







ジョギング 健康は自分の意志で、とジョギングがブームです。早朝のすがすがしい空気を吸って走る気分は格別で、今朝も各所でマイペースのランナーが元気よく走る姿が見られます。



竹細工 別府市の伝統工芸・竹細工は、ひとつひとつに手作りの暖かさが宿っています。この技術を受け継ぎ、次の世代に伝承することも今の竹工芸家の大切な務めです。



フットベースボール 蹴る、捕る、走る。3拍子揃ったフットベースボールも子供達の人気の的。放課後のひととき、歓声をあげて走りまわる元気な姿のスナップです。

人形劇 子供たちの夢を育てる人形劇。団員はハードな公演スケジュールをこなして、ボランティア活動などにも大活躍中です。



# 別府市が目指す都市像

1. 国際的な機能をもつ観光産業の都市
2. 健康な環境を保障する人間福祉の都市
3. 科学を尊重する文化教育の都市
4. 調和のとれる広域連帯の都市
5. 誇り高い市民自治の都市

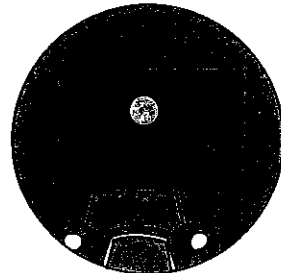
## 1 観光の振興

すべての人の  
観光保養地  
であるために。



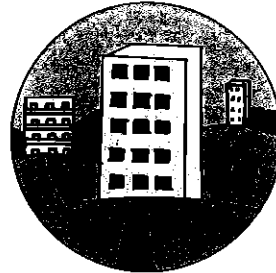
## 2 交通体系の整備

地域の発展と  
広がりのある  
生活のために。



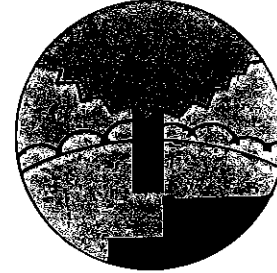
## 3 都市基盤の整備

住みやすく  
調和のとれた  
街であるために。



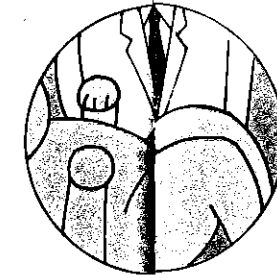
## 4 生活環境の整備

便利で快適な  
生活のために。



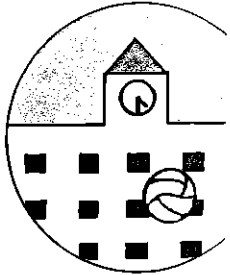
## 5 福祉の充実

生きがいのある  
健康な  
生活のために。



## 6 教育文化の

豊かな教養  
人間性を  
つちかうため



# 市が目指す都市像

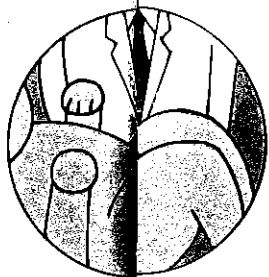
- 国際的な機能をもち観光産業の都市
- 健康な環境を保障する人間福祉の都市
- 科学を尊重する文化教育の都市
- 調和のとれる広域連帯の都市
- 誇り高い市民自治の都市

準備

な  
こ。

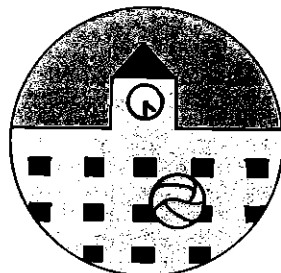
## 5 福祉の充実

生きがいのある  
健康な  
生活のために。



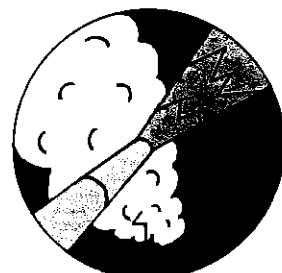
## 6 教育文化の充実

豊かな教養と  
人間性を  
つちかうために。



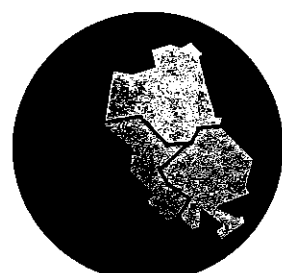
## 7 防災安全の充実

毎日の暮らしが  
平和で  
あるために。



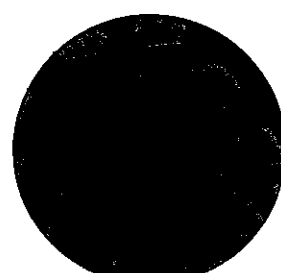
## 広域施設の充実

広域の課題を  
合理的に  
解決するために。



## 産業経済の振興

伝統工芸を  
伸ばし  
地域経済の  
発展のために。



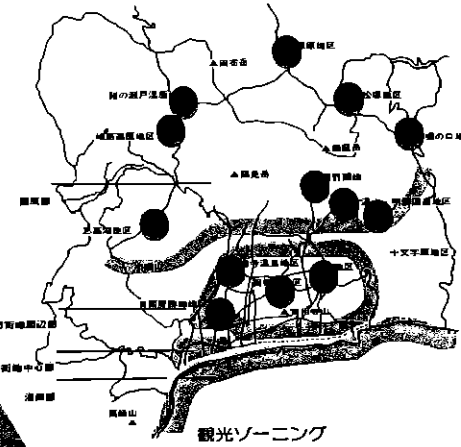
全国一の湧出量を誇る温泉資源と、山や海のおりなす秀麗な自然美に恵まれた本市は、昭和25年に国際観光温泉文化都市に指定されて以来、観光を基幹産業として発展を続けてきました。今後もすべての人に愛される観光保養地であるために、市全域を高原部、市街地周辺部、市街地中心部、海岸部に

すべての人の観光保養地であるために。



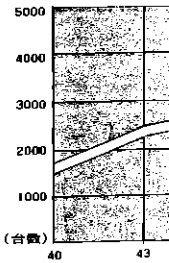
親切運動  
シンボルマーク

ゾーニングし、観光動向に対応した各ゾーンの開発整備を推進します。また、観光関係者及び市民と観光客の暖かいふれあいを大切にするため、「親切運動」を展開して接遇意識の向上を図っています。



観光客を迎えるホテル

地域の発展と広がりのある生活のために。



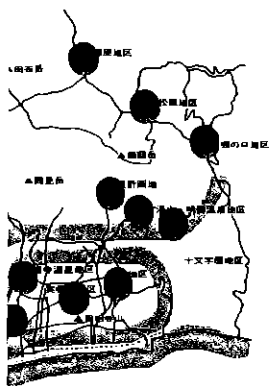
国産10

本市の沿岸線を縦貫する国道10号線の交通量の増加に伴い、各所で交通渋滞がみられるため、ネック地域の整備を促進しています。

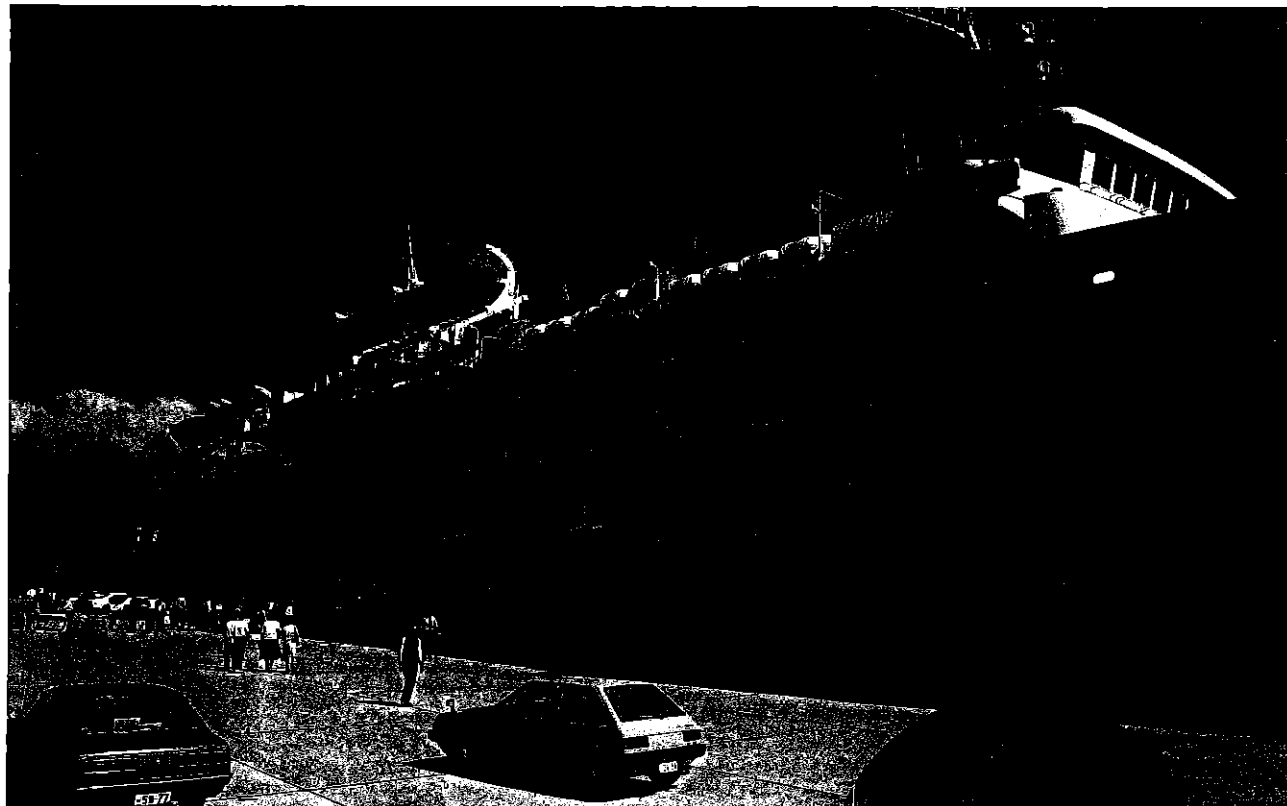
抜本的な解決策としては、北大バイパス(北九州-大分)、及び九州横断自動車道(長崎-大分)の早期建設を促進します。また、生活に密着した県、市道の改良事業も順次進めています。

東九州の海の玄関となる別府港の整備充実も本市の重要な課題で、大型観光船の就航を可能にする5万トンバースの建設をはじめ、国際観光港と呼ぶにふさわしい港湾周辺の施設整備事業を進めています。日豊本線大分-小倉間の複線化や大分空港拡張も早期実現を目指します。

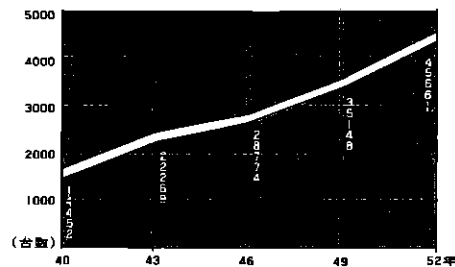
地域の発展と広がりのある生活のために。



光ゾーニング



一部完成した5万トンバース



国道10号線の交通量の推移

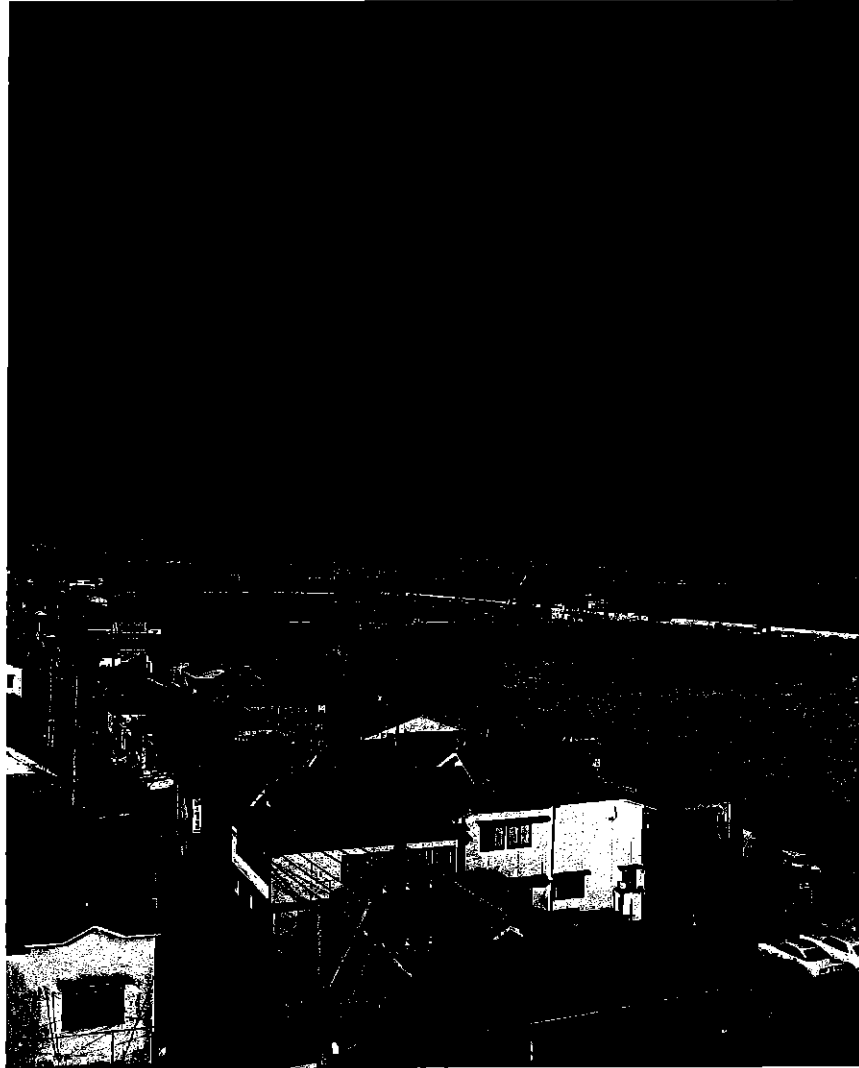


富士見通り拡幅工事



光客を迎えるホテル

住みやすく調和のとれた街であるために。



埋立造成が進む古市地区

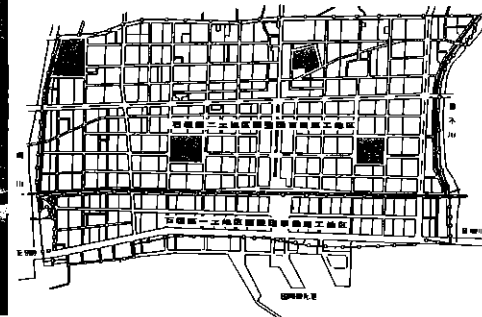
本市は長期的な将来展望のもとに、住みやすく調和のとれた都市基盤の整備を進めています。行政区域のほぼ中心にあたる石垣地区は、将来、交通の要衝となり、人口も相当数増加することが予想されるため、第1工区(昭和29年~55年)、第2工区(昭和38年~58年)に分けて区画整理事業を進め、

整然とした街並を造成しています。

また、市街化区域を13地区に分類して各地区の問題点解消を図るとともに、海岸線をゾーンに区分し、古市地区の埋立造成事業など、各ゾーンに適した沿岸整備事業を計画、実行しています。



区画整理が進む石垣地区



石垣地区区画整理計画図

便利で快適な生活のために。



野口

—緑地公園—

背後に鶴見山をはじめとする美しい山々を控えた本市は、緑あふれる絶好の自然環境に恵まれています。近年は宅地造成の波に押されて、近郊の緑は徐々に失われつつあります。このため、「花と緑の街づくり」をテーマに緑化運動を推進して緑化意識の高揚を図るとともに、

市民や観光客の憩いの広場となる公園の新増設、整備充実を進めています。現在整備中の公園は、児童公園や総合公園など23カ所、21.60ヘクタールで、昭和60年には、公園総面積は現在の約4倍の80ヘクタールになる予定です。

便利で快適な生活のために。



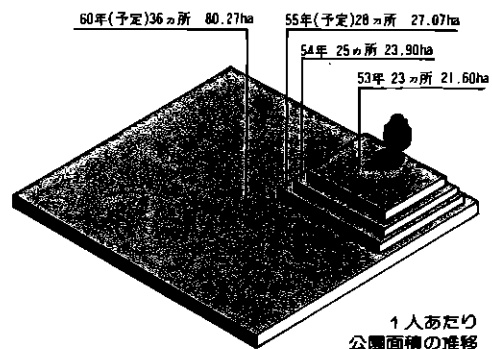
野口原児童公園



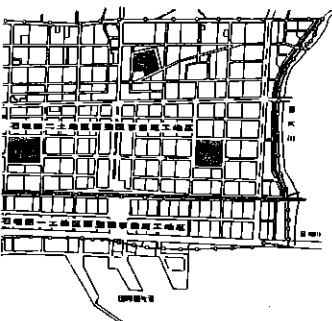
緑いっぱいの南立石公園



コスモス園



区画整理が進む石垣地区



石垣地区区画整理計画図

## 生活環境の整備

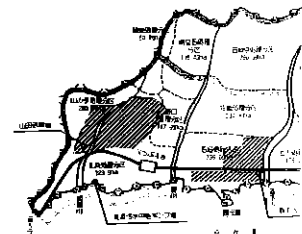
### 一住宅

生活の向上と核家族化が進むなかで、近年は住宅に対する意識が高まり、その質的向上を求める声がますます強くなっています。本市では、すべての市民が家族構成に応じた良好な居住水準を

もった住宅を確保できるようにするため、資金融資制度の拡充による持家率の向上を図り、公団、県営住宅の建築促進を働きかけるとともに、市営住宅の改良や建設の促進に努めています。



最近完成した市営住宅新別府団地





め、  
上を図り、  
るとともに  
います。



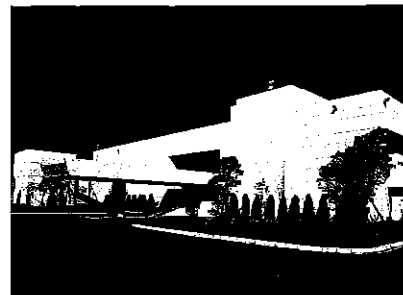
—上水道・下水道・ごみ処理—

本市の上水道は大分川系を主水源とし、その普及率は96.3%ですが、今後予想される水需要の伸びに対応するため、新規水源の開発や配水施設の近代化などの諸施策を推進しています。  
待ち望まれていた下水道対策は、昭和54年3月に高級汚水処理施設の中央浄化センターの一部が稼働を始め、

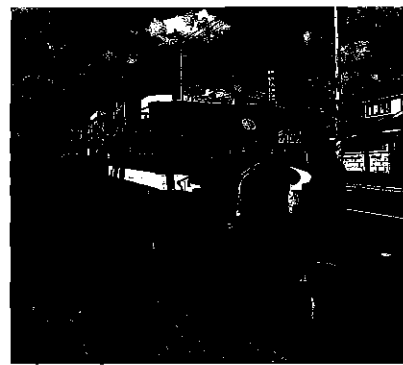
計画処理人口の12.5%にあたる23,500人分の汚水処理が行われています。  
今後も市街化区域全域の早期完成を強力に推進いたします。  
年々増加するゴミ対策としては、収集処理体制の充実を進めています。



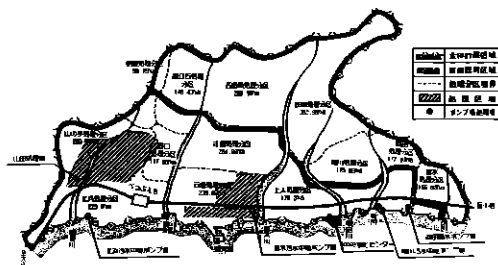
中央浄化センターの内部施設



中央浄化センター



ごみ収集



中央浄化センター処理計画図

## 福祉の充実

生きがいのある健康な生活のために。

—児童福祉・母子福祉・老人福祉—

次代を担う児童の健全な育成を旨として、  
保育所をはじめとする児童福祉施設の一層の充実を図っています。  
また、母子家庭の生活の維持向上を図るため、  
雇用の促進に努め、経済的援助の充実などを進めています。

老人福祉では、健康管理、生きがい、ひとり暮らし対策として、  
老人健康診査、老人医療補助、老人クラブの指導育成、  
老人ホーム、老人の村、ねたきり老人入浴サービスなどの  
諸施策を進め、今後も逐次充実強化に努めていきます。



暮を楽しむ老人ホームのお年寄り



中央保育所の園児たち



農協リハビリ

ひとり暮らし対策として、  
クラブの指導育成、  
入浴サービスなどの  
努めていきます。

—その他の社会福祉—

昭和48年7月に身体障害者福祉モデル都市の指定を受けた  
本市は、湧出量全国一の温泉など恵まれた自然環境を生かし、  
身体的、精神的にハンディキャップを負う人々の  
社会復帰を願って、公共施設整備等の諸事業を推進してきました。  
今後も心身障害者職業センターなど施設面での充実を図り、

社会意識の高揚などを含めた多方面にわたる施策を進めます。  
また、昭和53年には働く青少年のための勤労青少年ホームが  
完成しました。  
毎年12月上旬には、本市有志によるチャリティーショーが  
行われます。



農協リハビリテーションセンターでの機能回復訓練



チャリティーショー



勤労青少年ホーム「青雲」での簿物履つけ教室



所の園児たち

## 福祉の充実

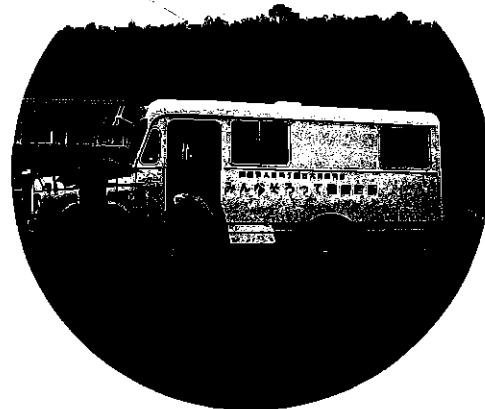
### —保健・衛生・医療—

本市の健康水準は年々向上する傾向にありますが、休日、夜間の急患等に対する医療供給体制の整備対策など、市民の健康ニーズに対応したきめの細かい保健サービスを目指しています。

成人病、結核、伝染病などの予防対策としては、定期健康相談、地域検診をはじめとする保健活動を通じ、早期発見、早期治療による予防思想の普及啓発を図っています。



保健所での乳児検診



過疎地域の定期健康診断



献血

6

## 教育文化の充

豊かな教養と人間性をつちかうために。



市立別府商業高  
コンピューター

最近完印



## 教育文化の充実

### —社会教育—

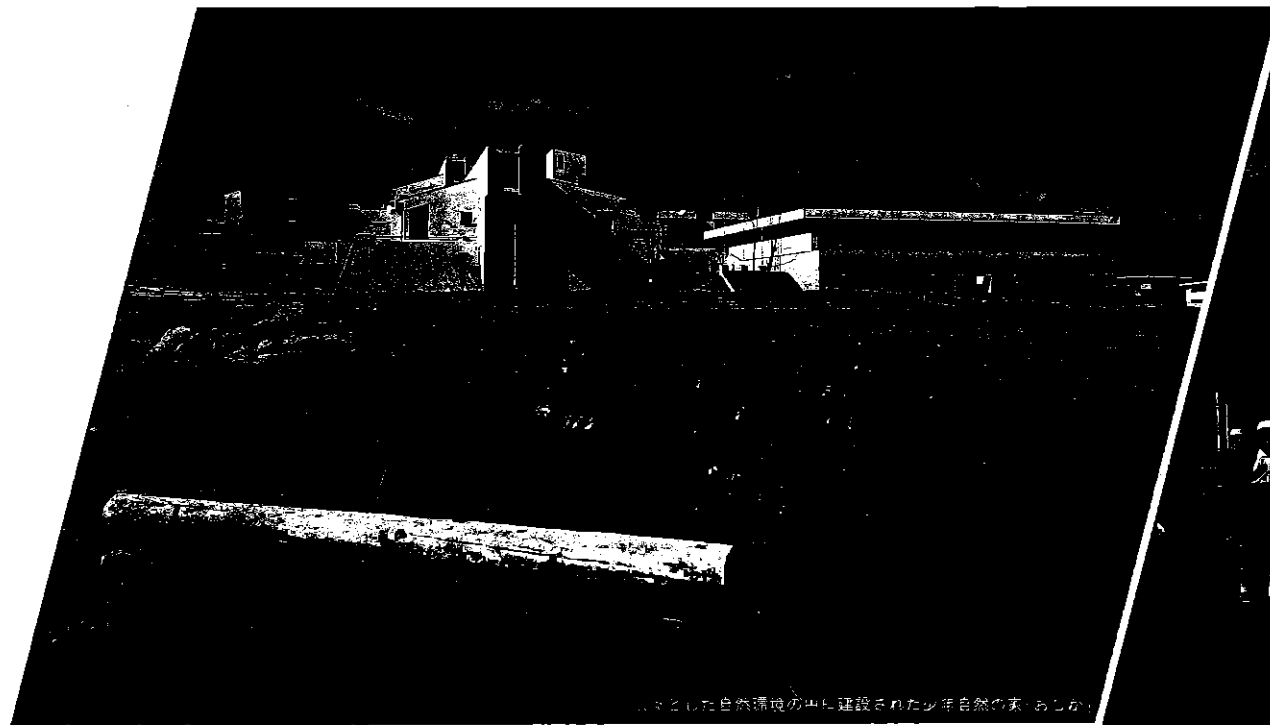
青少年の健全な育成を目指して、緑あふれる東山校郷地区に建設していた少年自然の家が53年に完成し、行動的な活動の場として期待されています。

成人教育では、生涯教育の場となる施設の充実を目指し、会議室や実習室などを備えた地区公民館の建設を

逐次進めています。

また、婦人会館や公民館の学習講座も充実し、広く開放しています。

文化面では、音楽会や美術展、文化祭など市民の文化活動を援助し、各種文化施設の整備を図ります。



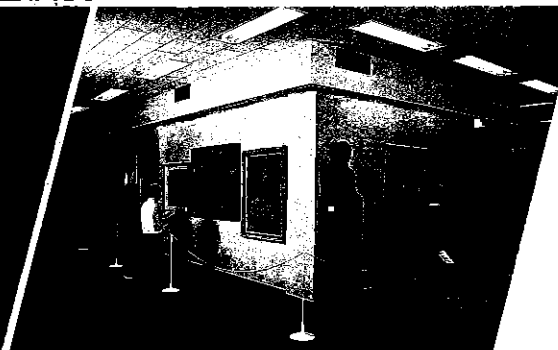
自然環境の中心に建設された少年自然の家（あしか）



実相寺サッカー競技場



婦人会館「なでしこ」での和裁教室



市立美術館

習講座も充実し、

文化祭など市民の文化活動を  
を図ります。

### —社会体育—

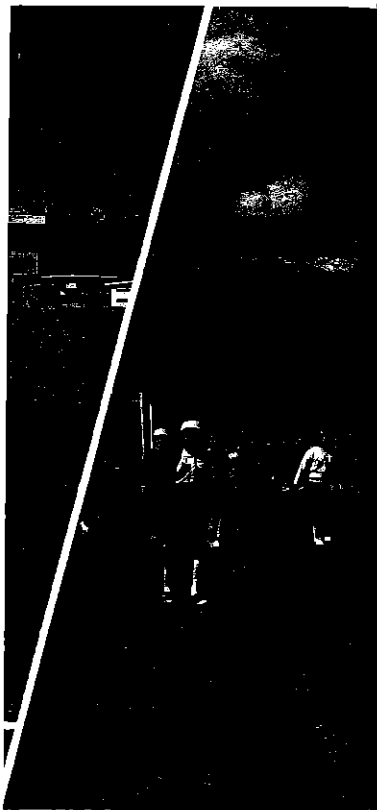
近年、体育・スポーツに対する市民の欲求は  
急激に高まっています。

本市は観光保養都市という性格上、国際試合を含む  
スポーツ観光を考慮し、指導者の育成、諸施設の充実などを  
推進しています。

現在、野球場や陸上競技場など約130の主要スポーツ施設が

ありますが、昭和53年には、大規模な大会ができる  
市営ゲートボール場が完成し、保養をかねたお年寄りの  
親善試合の場として喜ばれています。

また、市民が高度なスポーツ技術を鑑賞できる  
機会を設けるため、別府市民体育館を建設中で、  
今年度末には完成する予定です。



実相寺サッカー競技場

毎年10月に行われる市民体育大会

毎日の暮らしが平和であるために。

本市の火災件数は、昭和48年から増加し同52年には減少しましたが、全国的な各種災害の増加傾向に伴い、消防体制、設備の強化を図っています。  
 現在、常備消防組織は本部に3課7係、吏員28名、署は1署4出張所、吏員145名の組織であり、非常備消防組織としては1本部13個分団の消防団がありますが、昭和53年には別府消防本部の新庁舎が完成し、消防体制が充実しました。

今後の課題としては、老朽化した出張所の整備や奥別府地区への消防分団の設置、広域消防体制の確立などがあります。一方、本市の交通事故状況は、自動車交通量の増大にもかかわらず、毎年減少傾向をたどっていますが、今後も交通安全施設の整備を進め、事故防止の意識向上にも努めていきます。



○ 交通事故発生状況の推移  
 ○ 火災発生件数の推移  
 □ 交通事故件数 □ 火災発生件数

「手をあげて」児童の横断

広域の課題を合理的に解決するために。





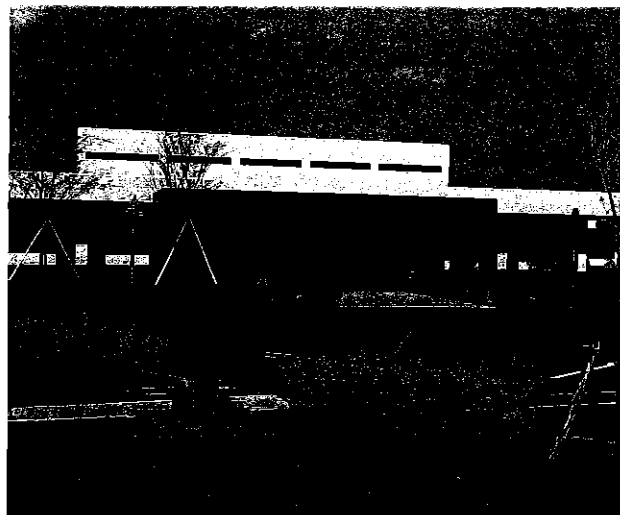
備や  
制の確立などが  
自動車交通量の増大  
ますが、  
の意識向上にも

## 広域施設の充実

広域の課題を合理的に解決するために。

市民の日常生活の行動範囲は日々広がっていますが、これに対応して本市では昭和48年に別荘遠見地域広域市町村圏事務組合を発足させ、社会福祉施設、生活環境施設などの整備を進めてきました。事業の一環として昭和49年度には特別養護老人ホーム広寿苑が完成し、同52年には秋草葬斎場が、また同53年には

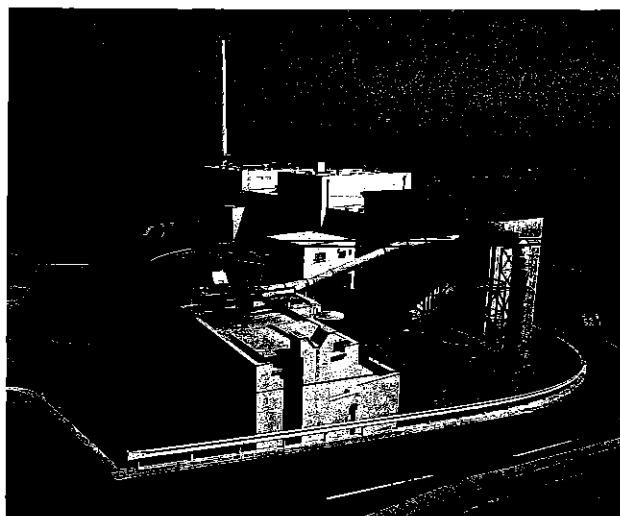
藤ヶ谷清掃センターが建設され、2市2町、約19万人の福祉、環境の向上に役立っています。今後計画されている事業は、自然遊歩道の建設、広域観光の振興などですが、地域社会の豊かな発展のため、果たす役割は大きくなっています。



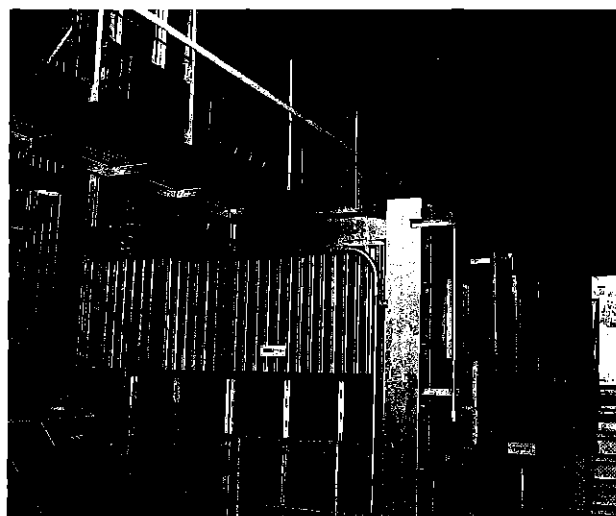
秋草葬斎場



その内部施設



藤ヶ谷清掃センター



その内部施設

伝統工芸を伸ばし、地域経済の発展のために。

—竹産業—

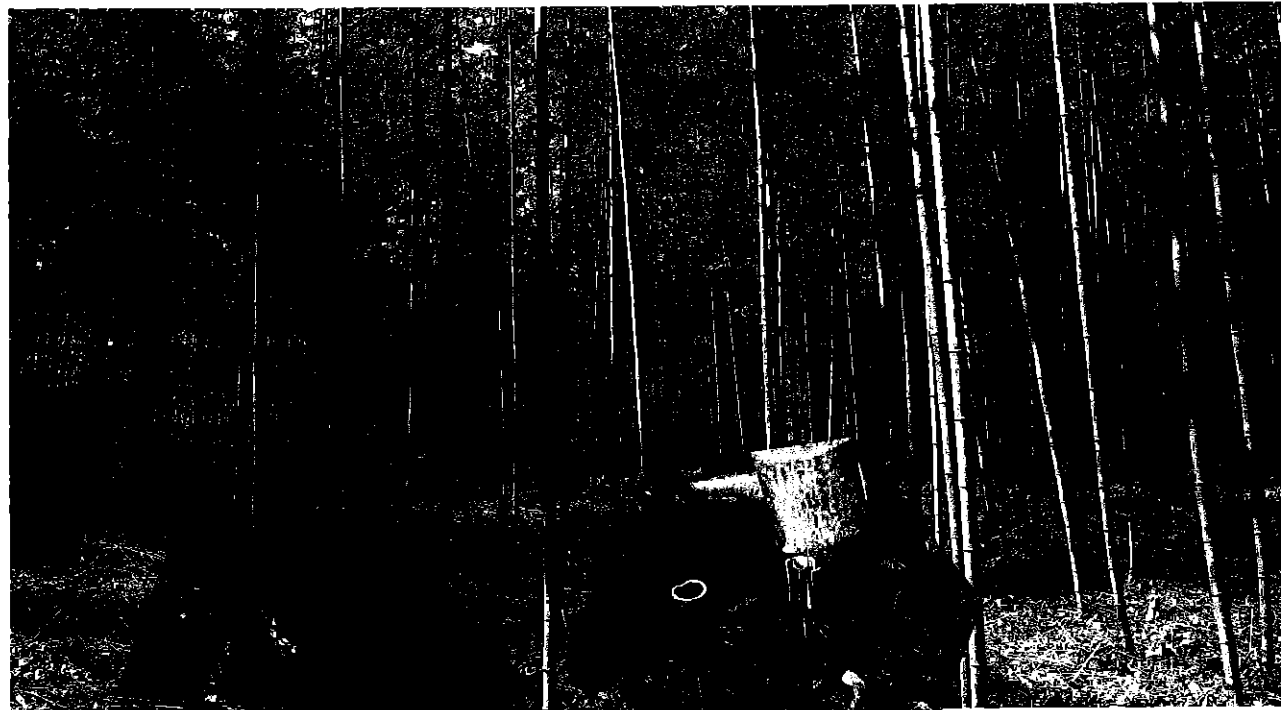
古くから本市の特産品として知られる竹製品ですが、近年は開発途上国からの輸入、これに加え原竹及び後継者不足など問題が山積しています。

この対策として、本市では昭和60年度完成をメドに竹の里を建設中です。

これは観光産業の観点からも検討されているもので、

竹の品質改良などの試験機関と竹工芸技術者育成のための共同作業所、工芸研修生のための宿泊施設、原竹不足をおぎなう生産竹林の造成など、諸施設が整備されることになっています。

また、伝統的工芸品としての指定も54年8月に受けています。



竹林

竹工芸の作業工程

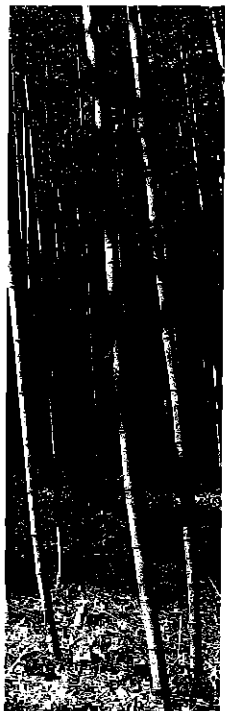


ショッピング

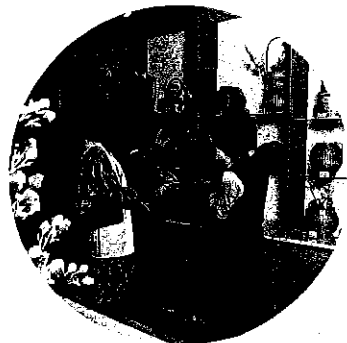


活気ある卸売市場

技術者育成のための  
施設、  
と、諸施設が整備される  
年8月に受けています。



竹林

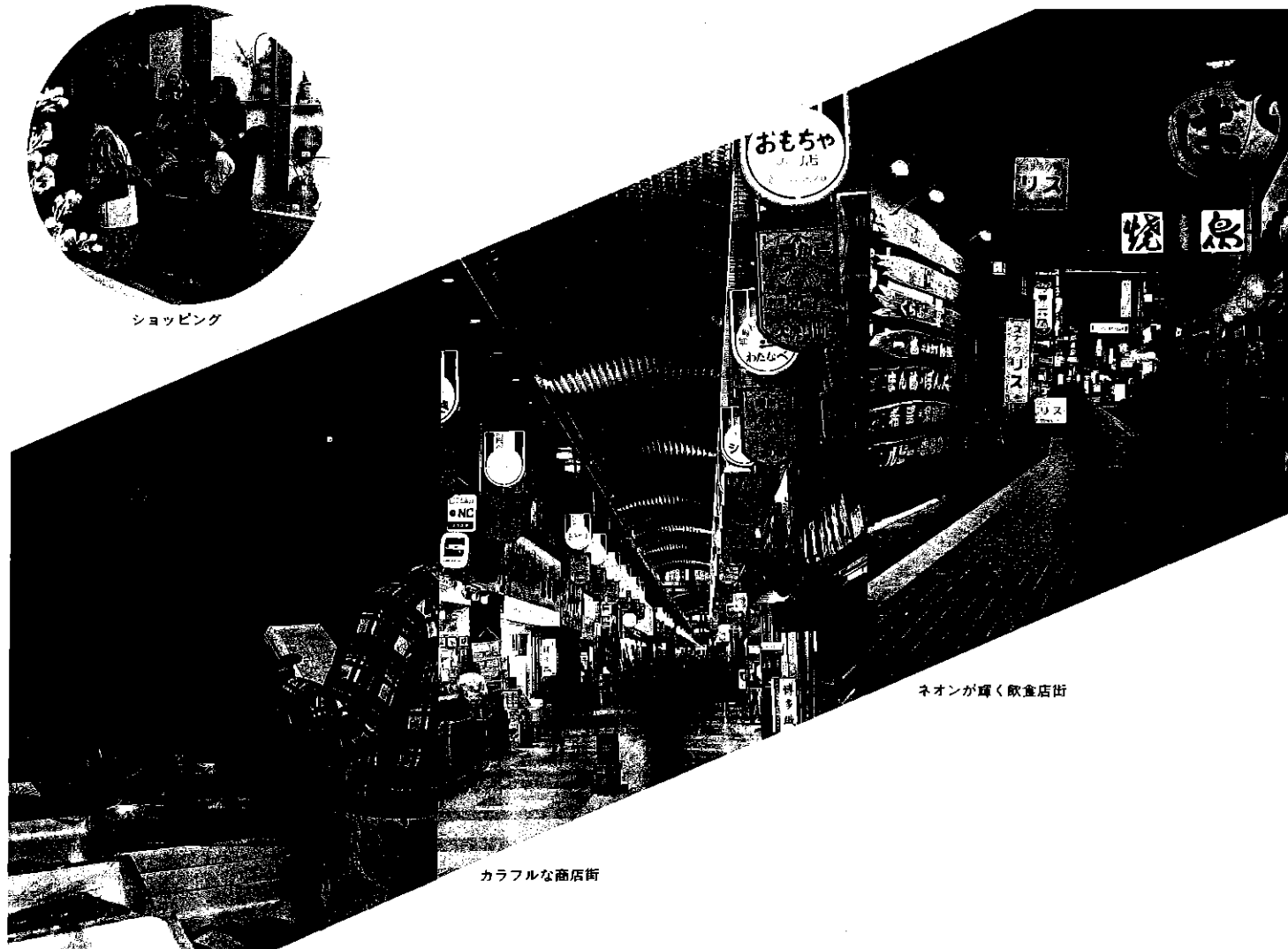


ショッピング

—商業—

本市の商店街は、別府駅を中心とした都市商業地区と、  
これを取りまく近隣商業地区によって構成されています。  
しかし、その商圈は隣りあう大分市に併合されている傾向が  
強く、商業近代化計画の推進が強く望まれているのが現状です。  
この計画は、国際観光温泉文化都市にふさわしい個性を備え、

近代的、合理的な都市型商店街の造成を目指すもので、  
人と人とのふれあいを大切にする意識の向上や  
市民の欲求に対応した環境施設整備も重要な課題と  
なっています。



ネオンが輝く飲食店街

カラフルな商店街

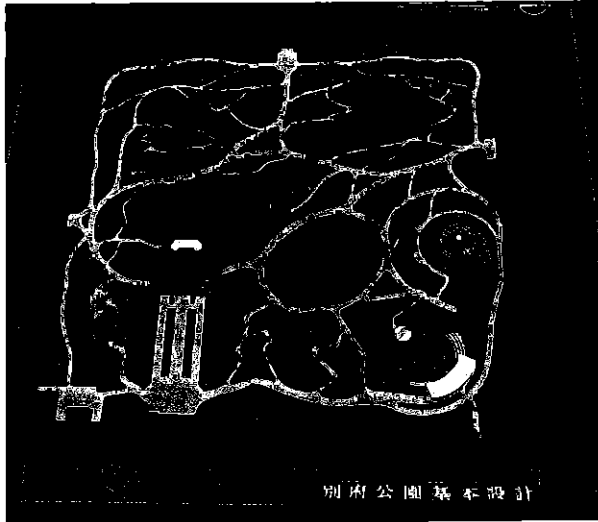
活気ある卸売市場

# 別府市の未来に向けて

確かな生活空間の青写真

## 1 天皇陛下御在位50年記念公園(別府公園)

昭和32年以来陸上自衛隊が使用し、今回その崩山への移駐に伴って本市に既に払下げられた、又これより払下げを受ける予定の跡地は文教地帯に位置する20haの貴重な財産です。本市では、長期的展望のもとにこの利用法を検討してきましたが、市民の意向も反映してこの跡地を公園ゾーン、文化ゾーン、体育保養ゾーンの三つに大別し、その目的にそった施設を整備いたします。公園ゾーンについてはすでに国より用地の払下げも終り、天皇陛下御在位50年記念公園の建設に着手いたしました。



別府公園基本設計

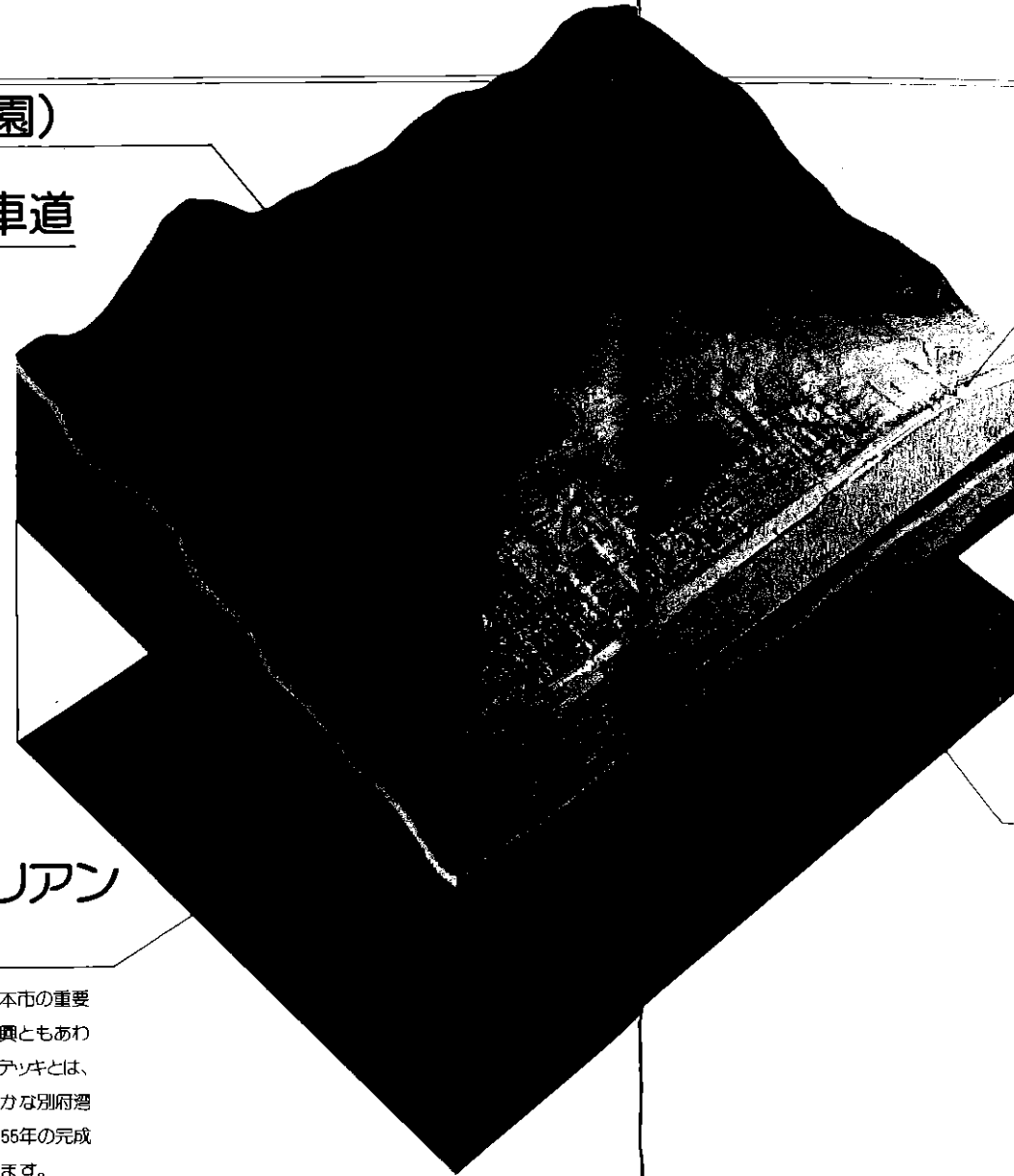
天皇陛下御在位50年記念公園模型

## 2 九州横断自動車道

本市に係わる幹線は、国道10号線と九州横断道路(やまなみハイウェイ)ですが、近年交通量が増加し、交通渋滞が処々で見られるようになりました。この抜本的解決は、観光都市としての本市の性格上からも急務となっています。別府-湯布院-日田-鳥栖-佐賀-長崎を3時間圏で結ぶ九州横断自動車道、及び別府-北九州を1時間10分で結ぶ北大バイパスの建設がもたらす本市への役割は大きく、各方面の協力を得て早期実現を図っています。

## 3 ペDESTリアンデッキ

別府湾に面した海岸の整備も、本市の重要な課題のひとつです。観光の振興ともあわせて計画されたペDESTリアンデッキとは、海浜の遊歩道のことです。寂靜かな別府湾を眺める北浜海岸沿いに、昭和55年の完成を目指して工事が進められています。



## 4 地方卸売市場

本市の現在の卸売市場は、青果4社、水産4社、花き2社の合計10社ですが、立地条件や交通、施設の悪条件が重なって市場機能を低下させています。このため、本市を中核とした2市6町1村の消費者の要求に即応できる、別府市公設地方卸売市場を建設します。場所は現在造成を進めている古市埋立地で、昭和56年度を開設目標年度にしています。



地方卸売市場バース

## 5 5万トンバース

現在、本市には水深5.5m3,000トン級バースほか6バースがありますが、今後の船舶の大型化や入港便数の増加などに対応するため、水深12m50,000トン級バースの建設と関連周辺施設の整備を進めています。現在その一部ができ、国内船の発着がすでにに行われていますが、延長275mにわたる全工事が完成すると、外国航路船舶の寄港や国際観光船、国内不定期船、観音艦船等の出入港が計画されています。完成は昭和60年の予定で、国際観光港の名にふさわしいバースとして大きな期待を集めています。

# 市民とともに歩む市政

## 1

昭和の移り  
り私  
20年  
とも反  
育保  
設を  
国よ  
念公



中央 / 脇屋長可市長  
左 / 藤沢 堯 助役  
右 / 木部 茂 収入役

本市の市政は「市民とともに」を基調とし、目標とする本市の都市像を確立するために日々努力しています。交通体系の整備、都市基盤の整備など各施策ごとに課題は数多くありますが、別府市の豊かな将来のために、市民とともに誤りのない進路を求め続けたいと考えています。

本市役所の部局組織は、総務部、観光部、経済部、市民福祉部、環境部、建設部、教育委員会、水道局、消防本部（署）、その他からなり、約50課、1,719人の職員がキメの細かい行政サービスに務めています。



天童



本市の都市像を確立す  
るの整備など各施策こ  
ろに、市民とともに課  
税、福祉部、環境部、建設  
部、約50課、1,719人



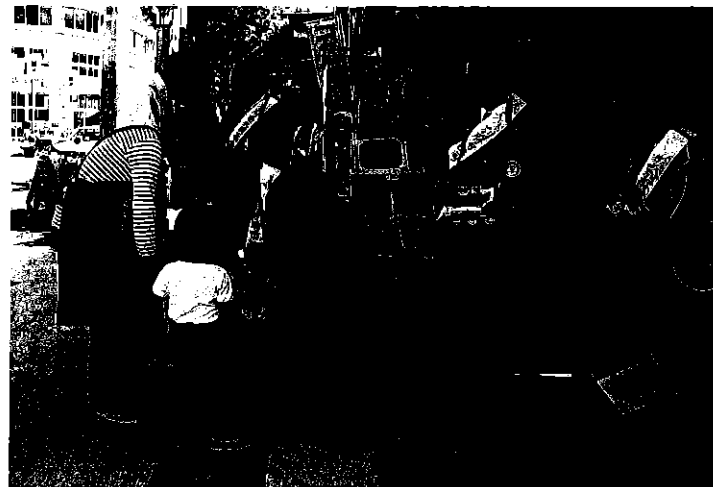
市民相談



湯あみまつり

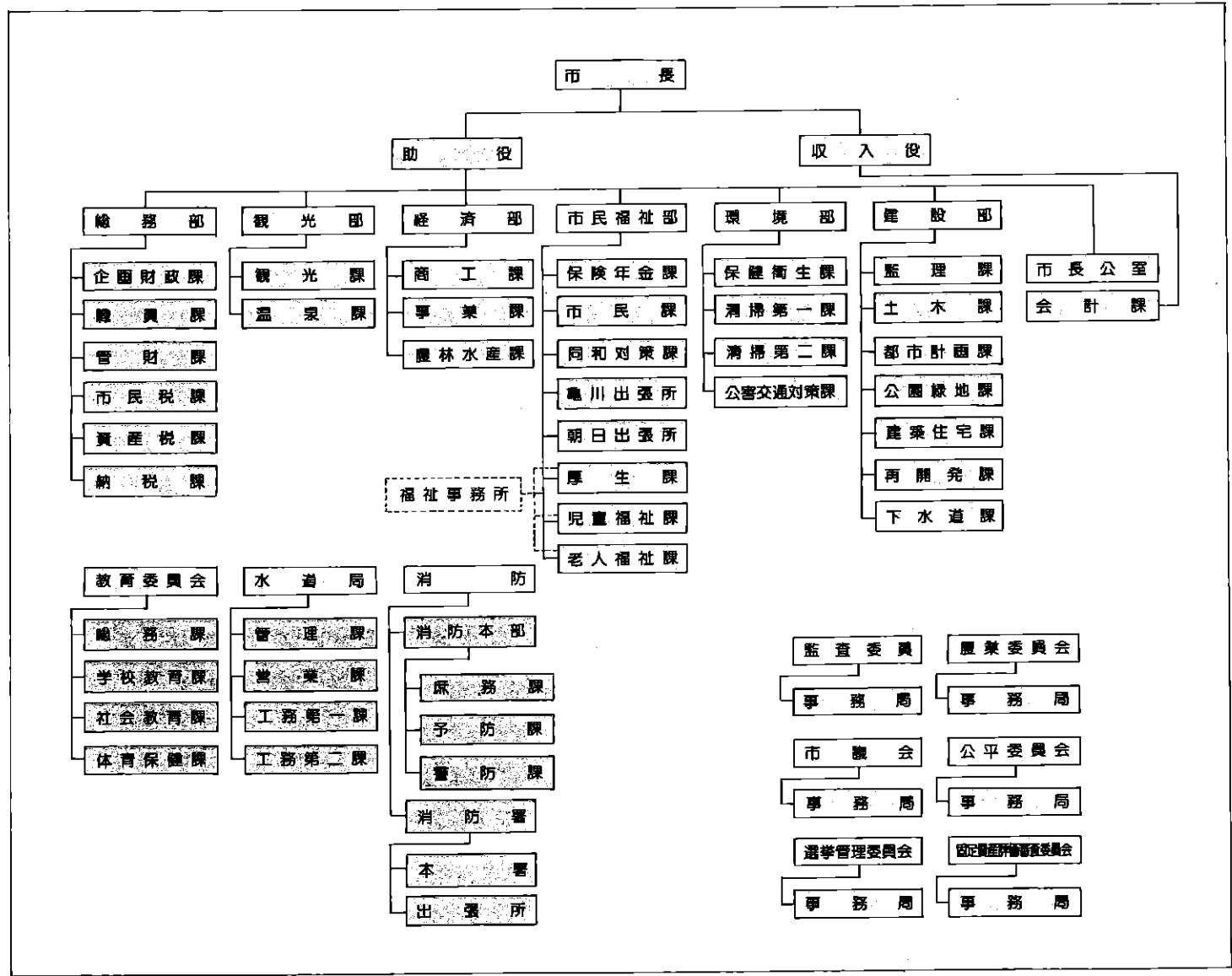


市民体育大会

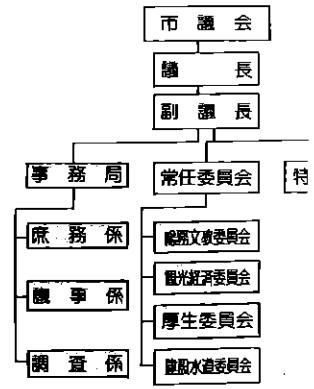


赤い羽根街頭募金

# 行政機構図



## 議決機関





# 市民の声を反映する議会



議 長 豊 田 実



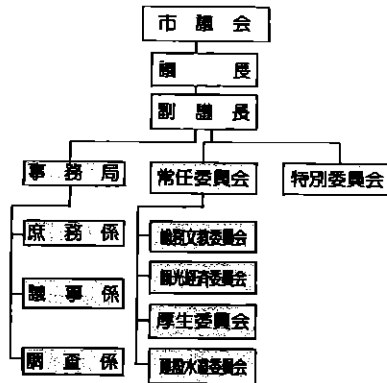
副 議 長 吉 富 孝 夫

予算や条例などを審議、決定する別府市議会は、市民によって選出された36人の議員によって構成されています。年4回の定例会のほか、必要に応じて臨時会を招集して審議します。総務文教、観光経済、厚生、建設水道各委員会といくつかの特別委員会があり、それぞれ「衆智を集め大成を期す」の理念にのっとり積極的な討議が行われています。



議 場

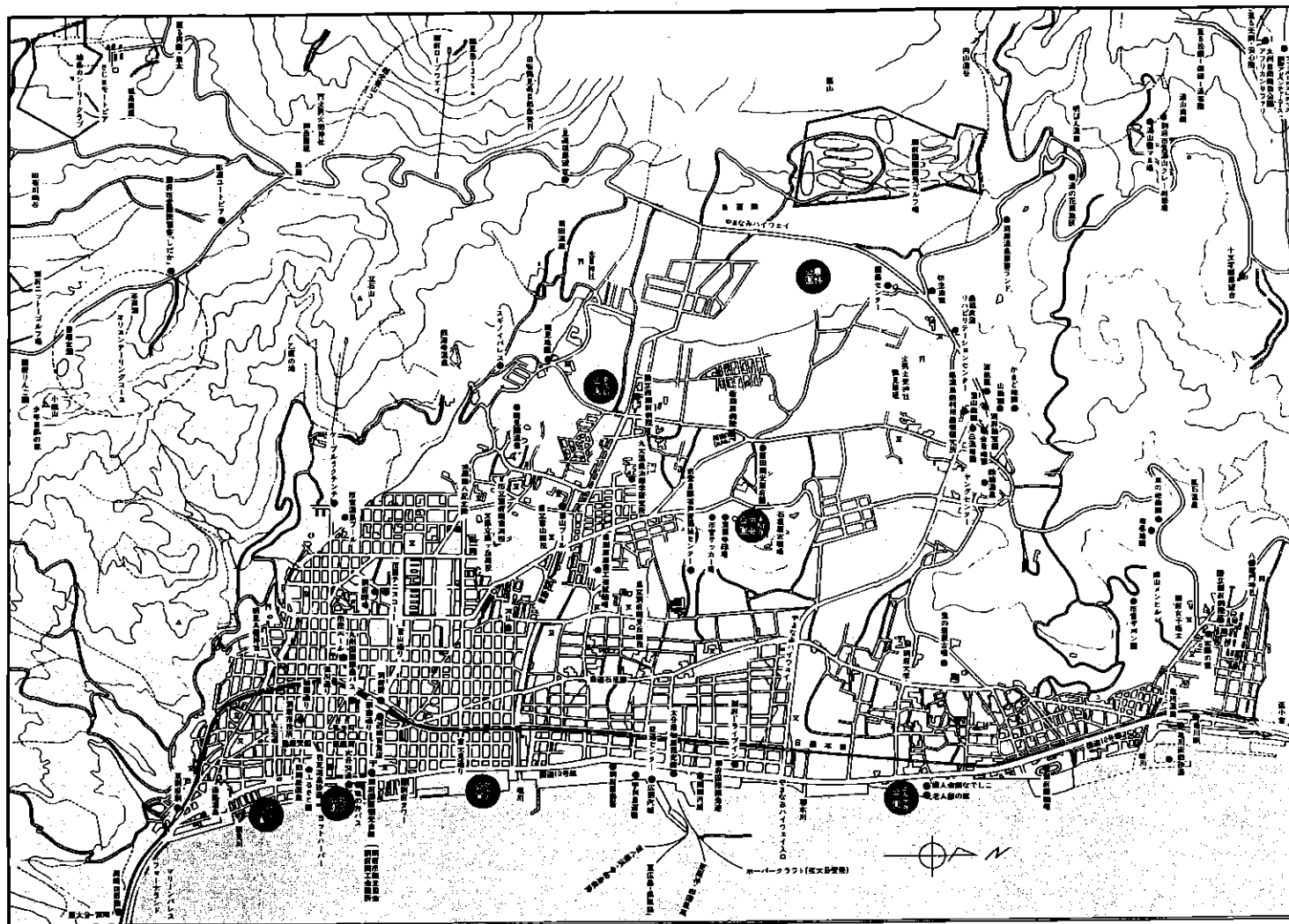
## 議決機関



市長公室  
会計課

議会  
事務局  
庶務係  
議事係  
調査係

# 市街図



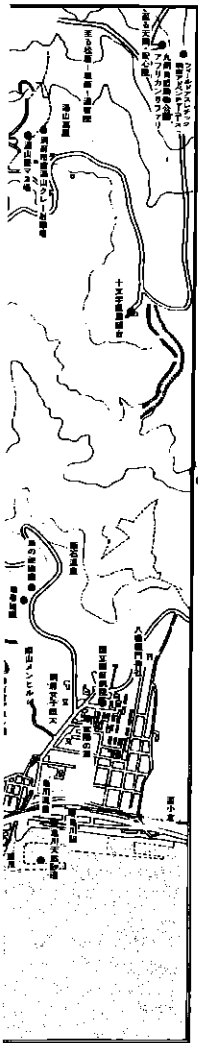
●公園・緑地・観光施設・温泉群・公共施設

## 温泉治療学雑



温泉に限らず風呂に入る。それによってその日のことも多い。このような効果の相当大きい部分を占めは自律神経を調整し、ホリによって生体の諸機能を順とところが、従来の温泉作は、実験動物として兎や鼠。このような論文に出くわすまう。果して兎や鼠は温泉なのであろうかと。動物は知らないが、少なくとも外見えない。もちろん彼らに40℃というような高温の湯で初めての経験であろう。レス解消どころか、かえって十分考えられるとこのデータの解釈には、この注

# ベラッパ・昨日・今日・明日



泉群・公共施設

## 温泉治療学雑感



九州大学  
温泉治療学研究所  
延永正

温泉に限らず風呂に入るといい気持ちになるものである。それによってその日の苦勞や不愉快が忘れ去られることも多い。このようなストレス解消作用は、温泉効果の相当大きい部分を占めるものと思われる。それは自律神経を調整し、ホルモン分泌を正常化することによって生体の諸機能を順調ならしめるからである。

ところが、従来の温泉作用に関する研究論文の中には、実験動物として兎や鼠を使ったものが少なくない。このような論文に出くわすと、私はつい考えこんでしまう。果して兎や鼠は温泉につかっている気分になるのであろうかと。動物は何も言わないので真相はわからないが、少なくとも外見上はあまり楽しそうにはみえない。もちろん彼らに入浴の習慣はない。ましてや40℃というような高温の湯につかることなど、生まれて初めての経験であろう。とすれば、温泉入浴はストレス解消どころか、かえって大変なストレスになることも十分考えられるところである。動物を使った実験データの解釈には、この辺のところをよく考慮すべき

であろう。

もうひとつ、これらの実験で気になるのは、彼らが人と違って非常に毛深いことである。そのため温泉成分が果たしてどれだけ素肌に接し、さらに皮膚を通して吸収されるであろうか。少なくとも人に比べたらはるかに少ないに違いない。その意味では豚が割合人に近いと思われるが、これまた温泉を好むのかどうか？ おそらく動物の中で温泉を好むのは猿くらいであろうが、これも毛深いのが難点である。そうみると、温泉の研究には今のところ人を使う以外、よい方法はなさそうである。動物を使った研究結果に対しては、もう一度人を使って見直しをすべきかもしれない。

## これからの竹産業界



竹工芸技術者  
油布昌孝

別府の竹工芸の歴史は古く、景行天皇の御代に飯笥、米上げしょうけ、荷負籠等を献上したと歴史書に記されている。竹細工に最も良質である真竹が数多く生息

しており、温泉観光と相まっておみやげ品、実用厨房商品等を生産し、地場産業として根づいてきたが、明治30年代に創立された浜脇町工業徒弟学校が、現在の竹産業界に与えた影響は大きい。その教課の中に竹箆、漆工があり、現在伝統的な工芸品等の製作をし、若手に技術指導されている先輩は、その頃のきびしい徒弟制度の中で練磨研鑽を重ねている。いまは指導機関も充実し、県立工芸試験所、職業訓練校、市工芸研究所などが技術・デザインの向上、販路指導にあたり、この卒業者の中から、人間国宝生野祥雲齋、名人岩尾光雲齋、木村雅苑齋各氏らに続く工芸家が育ち、作家活動に研鑽していることは頼もしい限りである。

戦後の物資の不足していた頃には、竹製品は代用品としての役目を担っていたが、高度成長時代にはプラスチックなどの厨房商品や、技術の低級なものは輸入品にとってかわられた。現在は、高等技術を要するアイデアを生かしたインテリア商品が、本物を知る人達に喜ばれ、別府市主催による新作展示会などでは、伝統に根づいた茶道具、生花道具などの中でも、本物嗜好の傾向が強まっており、ますます技術、デザインの研究を進める必要があるといえるだろう。

最近では、国内竹製品生産の3分の2程を製作する実績が認められて、伝統的工芸品の産地指定を受け、卸販売業者を含めた運営組織の中で発展しようとしている。昭和60年を目標に建設される竹の里、竹の団地も、別府観光の一翼を担う意味からも竹産業界にとって明るい話題である。

## 別府と私



県立大分上野丘高校  
講師  
アルフレッド・  
グリーン

ロスアンジェルスで、映画「七人の侍」を見た時には、自分が16年もの間、日本に居住するなど思いもしないことでした。当時私は、ロスの「東宝ファンクラブ」の一員で（白人は少なかった）、日本の映画を月に何度も見に出かけ、リトル東京の食堂で日本食に舌つづみを打つことが、細やかな日本との触れあいだったのです。それが今では、どっぷりと頭まで浸り“別府の変な外人”としてどっかり胡座をかいています。

“BEPPO”の名を私が初めて知ったのは、東京の知人と九州旅行の計画を立てたときでした。関西汽船から眺めた鶴見の美しい山々と箱庭のような町並は、外国や日本のどの町よりも印象的でした。その印象が魅力へと変わり、しばらくこの町に住んでみたいと思ったのです。

当時の別府は、小ぢんまりとしたまだ都市というよりは町でした。建物も昔の姿を残している物が多く、海岸線を行き交う車も少なく人が懐切られるほどのんびりとしたものでした。中古のゲットサンをガタビシいわせながら狭い道を走らせて、映画で見られなかった興味ある物を見たり、聞いたり、触れたりしながらの生活から始まりました。それらすべてが東洋の神秘

の様に感じられたものです。永く住んでみると神秘は現実へと姿を変えたのですが、町から都市へと変わっても、心の中の別府は、船の中から見たとときの別府と少しも変りはないのです。そして何よりも、様々な人々との出会いが、私をこの町に留めたのだと思います。

今でもそして今からも、別府は私にとって深いかかわりを持つ土地に変りはないのです。16年の歳月を振りかえると、様々な思いが胸をよぎり、運命のおりなす糸の不思議さを感じずにはおれません。

## 「情」のある旅を



亀の井バスバスガイド  
川野 清江

私、バスガイドという職業にならずに早7年。これまでに多くの人間と出会い、そして別れ、さらに多種多様なことを見聞き、学んできたつもりである。

入社した頃をふりかえり、先輩方からの教えなどから考えてみると、日本人ほど旅好きな人種は珍しいと思われるが、そのわりには旅行がうまくない。あまりにも型にはまりすぎている気がする。旅行方法をもう一度研究すべきだと思う。それに、団体旅行などの場合は、できれば自己主張はやや控えめにした方がいい

だろう。皆がそれを通そうとすれば、まらなくなり、楽しい雰囲気も作れない。近はこのような傾向は影をひそめ、苦手になってきたと思うのだが……

しかし、その反面、「情」という言葉通じたのは昔であった。残念なことはこの意味が忘れられようとしている。忘れてはならない言葉だと思ひ、ぜひ出して欲しいものである。

さて次に、私自身の現在の故郷、另よう。豊富なお湯と細やかな人情を誇る町である。むろん一昔前とはかなり異近代化が進んできたため、情緒が昔の事は隠しようがないのであるが、発見が進まなければ、まだまだ落ちつと思う。それ故に、観光地という言葉で、できるだけ今のままの姿をとどめそれにおいてこそ、情を忘れぬ良い町ないだろうか。

## 住みよい町づくり



太陽の国  
吉

、永く住んでみると神秘は、町から都市へと変って中から見たときの別府と少して何よりも、様々な人々に留めたのだと思います。別府は私にとって深いかいのです。16年の歳月を振廻をよぎり、運命のおりなはおれません。

を

## 鳥の井バスガイド 川野 清江

業にたずさわって早7年。会い、そして別れ、さらに学んできたつもりである。先輩方からの教えなどかど旅好きな人種は珍しいと旅行がうまくない。あまり気がする。旅行方法をもうそれに、団体旅行などの場やや控えめにした方がいい

だろう。皆がそれを通そうとすれば、どうしてもまともにならなくなり、楽しい雰囲気も作れないのである。最近はこのような傾向は影をひそめ、昔に比べると旅上手になってきたとは思っているのだが……。

しかし、その反面、「情」という言葉の内容が深く通じたのは昔であった。残念なことに、今はすっかりこの意味が忘れられようとしている。旅をする以上忘れてはならない言葉だと思うし、ぜひもう一度、思い出して欲しいものである。

さて次に、私自身の現在の故郷、別府をながめてみよう。豊富なお湯と細やかな人情を残す、あたたかな町である。むろん一昔前とはかなり異なり、外見的な近代化が進んできたため、情緒が昔に比べて薄れてきた事は隠しようがないのであるが、今後、これ以上開発が進まなければ、まだまだ落ちついた風情を残せると思う。それ故に、観光地という言葉にとらわれないで、できるだけ今のままの姿をとどめるべきだと思う。それにおいてこそ、情を忘れぬ良い旅ができるのではないだろうか。

## 住みよい町づくり



太陽の家  
むぎの会会長  
吉松 時義

別府といえば温泉観光都市として名高い。海岸から山を眺め、山から海を眺めるとき、その中腹には白い噴気が立ち昇り、訪れる多くの人々の目を楽しませる。そして又、湧出量の豊富な温泉で旅の疲れをいやすことができる。豊富な温泉を利用して、企業や団体の保養所も各所に点在している。

このような環境の別府は、身障者福祉モデル都市でもある。48年度に厚生省は身体障害者が暮らしやすく、住みよい町をつくるための一助に、身障者福祉モデル都市として全国の都市のうち6市を指定した。別府市もその指定を受けて以来、道路、住宅、公共建築物の改善、改造に力を注いだ。このことは民間にも徐々にではあるが浸透し、設備の改善とともに身障者に対する関心は高まり、公共ホールの催し物、百貨店や商店街へのショッピング、市役所、銀行、公共施設の利用、レジャー等に参加できるようになり、生活範囲は広がった。この進歩は素晴らしいことだと思う。

しかし、これらは部分的な改善改造にすぎないのではないか。公共施設でも確かに1階の出入口はスロープにされ、段差はなくなり自動ドアもついて利用しやすくなったが、2階、3階は車椅子や脚の弱いものの利用は困難である。健常者が意識することなくなく生活している。それは特にハンディを負った人達が生活しやすい設備や構造にした公営住宅、交通機関、公共建築物（公共性のあるものを含む）等の促進が望まれる。常に新しい情報を収集分析し、何がハンディを負った人達に必要なのか、大切なのは何なのか、十分に検討され、長期的視野のもと根本的に解決されなければならないと考える。

## 3期の発展過程をたどった別府



別府市立南小学校長  
安部 巖

明治元年（1868）維新となり、旧幕領別府地方が日田県としてあたらしい歩みを始めてから早や112年の月日が流れた。

維新当時をおもいおすとき、そこには、石垣原の磯原を中心に、白砂青松の砂浜、ひたひたと押しよせる海波、山嶺を背景に天高く昇る白煙、清流と湧水を求めて寄りそった藁葺きの民家等がかうかんでくる。

それから100余年、静かだった別府は、人口13万余の都市となり、磯原にも、砂浜にも、温泉地帯にも、川べりにも、はた又丘の上にも、高層ビルが建ち人々が雲集する……観光都市別府に変わったのである……。

それは、交通至便と相まって、すぐれた風光、豊富な温泉に起因していることは勿論であるが、忘れてならないことは、ここまで築きあげてくれた先人の苦勞であろう。

このような思いにかられ、1世紀をふりかえって見れば、別府は、すくなくとも3期の発展過程をたどって今日にいたった。

その第一期は、明治元年より同35年頃まで、政府や県又は町村が、地域発展の主役として営々努力した時期であり、

# ペラッパ・昨日・今日・明日

その第二期は、明治36年頃より大正をはさんで、昭和12年頃まで、町村や企業家、成金が、不況下の町村財政立直しや、富の増加をねらって観光開発にとりくんだ時期であり、更に

その第三期は、第二次大戦後疲弊の中から立ちあがり、今日の別府をつくりあげた時期である。

このように考えてくると、さて、今後別府市発展の柱は何であり、誰がするのか。為政者、市民にかけられた責務は大きい。

## 和裁教室で得た喜び



婦人会館  
なでしこの和裁教室  
神田 百合子  
橋本 君子

働く婦人の家「別府市婦人会館」は、別府市の市街地である上人ヶ浜公園の一角に位置し、海と緑に囲まれたとても環境の良い所にあります。働く婦人の家は動労婦人を対象にしていますが、昼の教室は専業主婦の方が多く様です。色々な講座があり和裁もそのひとつです。朝9時半から11時半までの2時間ですが、とても充実した時間を過ごしています。生徒数20数名で若い主婦が多いようです。中には先輩の方もおられ、とても心丈夫です。着物といえば親に着せてもらい、

縫うといえば学校で少し習った程度です。この教室を知るまでは、着物は縫えなくてもよいものと決めておりました。なんとなく始めた和裁の最初は運針の練習からでしたが、思う様に針を動かすことができません。少し頑張ると肩がこり、頭痛がするありさまでした。初めてのユカタは泣く思いで仕上げましたが、このとき初めて作る喜びを味わうことができると同時に、私にも着れる着物が縫えたという感激でいっぱいでした。ここに通ってこられる生徒の皆さんは、それぞれ思いを持って通っておられることでしょう。今では以前のように針を持つといえばボタン付け、雑布縫いを卒業し、手の通る着物が縫えます。こんなに多くの喜びを味わうことができるのも先生の良き御指導と皆様のおかげだと思っております。なんといっても手づくりには勝るものはありません。いくらお金で立派な物が買えても味気ないような気がします。品物が沢山ある中で少しでも手づくりの良さを残し、また趣味にするのも良いと思っています。こんなすばらしい講座のある会館が広く皆様に知られ、手づくりの喜びを大いに味わっていただきたいと思います。

## 豊かなふるさとづくりのために



別府ふるさと館館長  
西村 武人

なつかしいもの、昔話を聞いたじい様の膝の温かさ。耳にしたいもの、海岸の砂のつぶやき。出会ってみたいもの、実相寺道の狐。

松原公園の夜店のアセチレン灯の臭い、露天風呂の湯煙り。往時の別府には情緒と豊かさがあった。

○

もし高崎山がなかったら狐はいなかったかもしれないし、この自然と温泉がなかったら《昨日の別府》も《今日の別府》もない。

太古から人々は敬虔と感謝の念をもって、自然と親近関係にあり、神の恵みのお出で湯に生きる共同体の間柄であった。誰もがその豊かさに素直に感動できた。

○

だが、過ぎ去った時の回顧だけでは《明日の別府》は生まれない。激しい時代の波と共に、自然も人も文化も揺れ動いている。

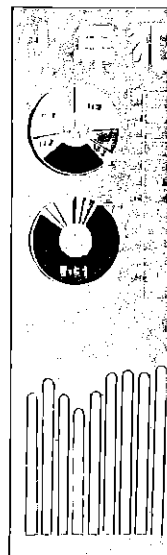
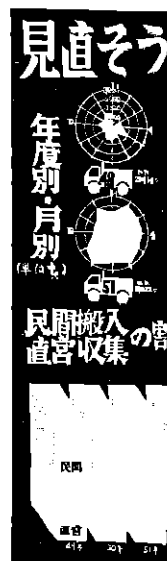
《豊かな別府》への提言に、近時、道路の整備を望む声が圧倒的である。確かに道は都市の近代化や発展のための要件であるが、古来日本人の「道」には実用性の道路の他に、心の「みち」という捉え方の伝統があり、自然に掃するという性格を見た。

「ふるさと」というものは、自然があり、暮しがあり、受継いできた霊や心情の世界があるから「ふるさと」である。

文化というものは、こうした生活から生まれ育ったものであり、豊かなふるさとづくりのためには、自然と出で湯に運命を共にする生活の、小さな喜びの表現を失ってはならない。

(發稿略)

# グラフィックで見ると別府市



昭和54年度統計グラフ  
大分県コンクール入選  
作品から

# グラフィックで見ると別府市

の、昔話を聞いたじい様の膝の温かさ。  
の、海岸の砂のつぶやき。出会ってみた  
寺道の狐。

夜店のアセチレン灯の臭い、露天風呂の  
の別府には情緒と豊かさがあつた。

がなかったら猿はいなかったかもしれな  
然と温泉がなかったら《昨日の別府》も  
もない。

々は敬虔と感謝の念をもって、自然と親  
、神の恵みのおで湯に生きる共同体の間  
誰もがその豊かさに素直に感動できた。

去った時の回顧だけでは《明日の別府》  
、激しい時代の波と共に、自然も人も文  
ている。

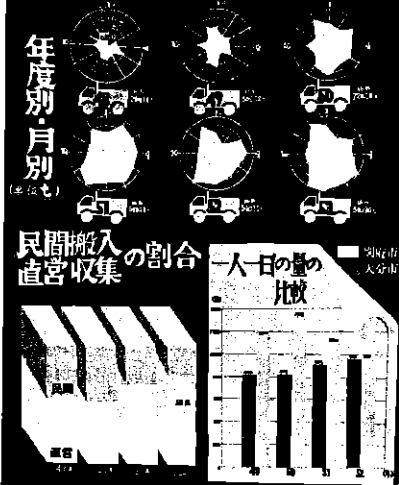
府》への提言に、近時、道路の整備を望  
である。確かに道は都市の近代化や発展  
であるが、古来日本人の「道」には実用  
に、心の「みち」という捉え方の伝統が  
席するという性格を見た。

」というものは、自然があり、暮しがあ  
きた霊や心情の世界があるから「ふるさ

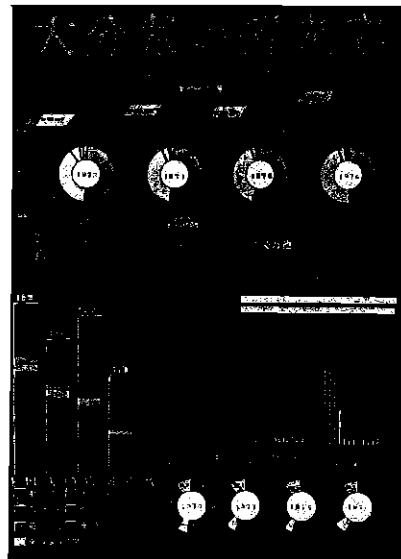
ものは、こうした生活から生まれ育つた  
豊かなふるさとづくりのためには、自然  
命を共にする生活の、小さな喜びの表現  
らない。

(敬称略)

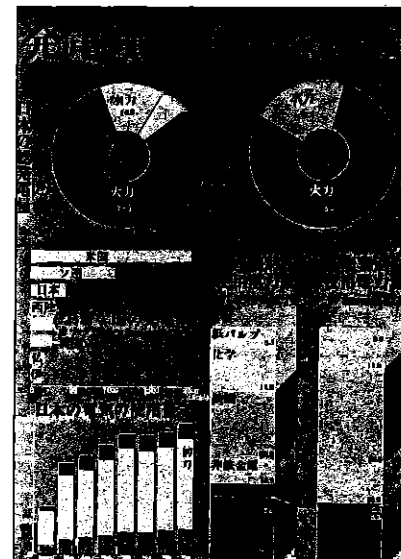
## 見直そう別府のゴミ!



〈見直そう別府のゴミ〉  
別府市立北部中学校 3年  
大野 陽子

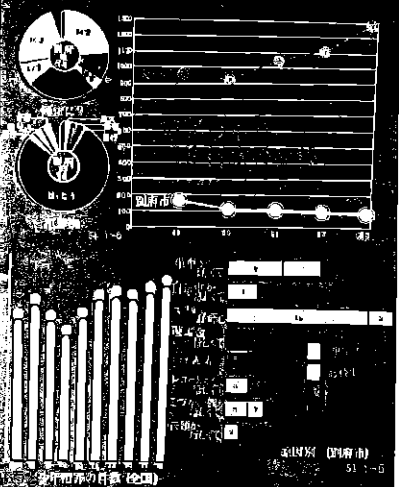


〈大分県の観光客〉  
別府市立北部中学校 1年  
牧 留美子

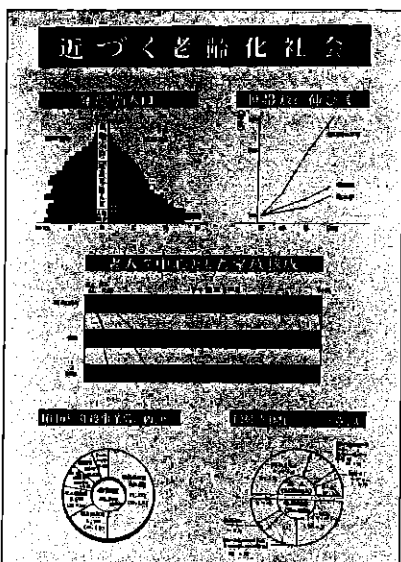


〈発電量とその使い道〉  
別府市立北部中学校 1年  
梶原 誠一

## 少年犯罪の推移

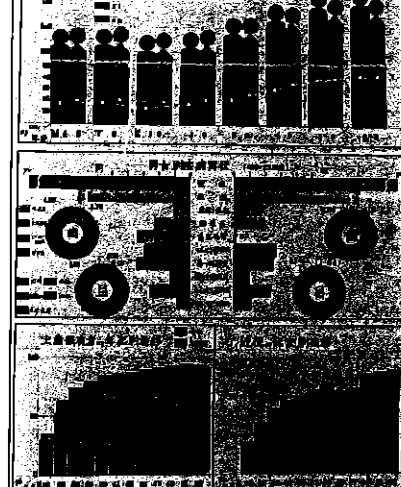


〈少年犯罪の推移〉  
別府市立北部中学校 1年  
仲 義治



〈近づく老龄化社会〉  
別府市立青山中学校 2年  
菊池 多恵子

## 中学生の発育と疾病調査

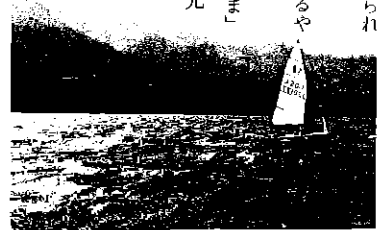


〈中学生の発育と疾病調査〉  
別府市立北部中学校 1年  
進 友香

昭和54年度統計グラフ  
大分県コンクール入選  
作品から

「ほんまに。大阪の海かて、あれでは我慢にも褒められ  
まへんよってな」  
「海と山と温泉と。別府はこれからもどない発展するや  
わからへん」  
「まあ。日本第一の温泉町だっしゃろ。条件が揃うてま

「悪名」今 東光



あるまじ、事實 例點揚  
とか、硫黄嶽とか、由布嶽にしても決して  
やさしくない山容ではある。だが、峠の城  
島台へ出ると、もっと意外な視野に出会ふ。  
そこに高原ホテルを見たり、薄雪をもった  
由布嶽の頂きを、眉近くに見出した事もだ  
が、踵を回らすと、九州中部山脈の屋根が  
一眸にはいつてくる。

「新平家今昔紀行」吉川英治



あたたかき海辺の街は春菊を  
既に売りありく霞は遠し

斎藤茂吉

再びは来じと思ひし窓により  
庭の木立に秋の声きく

柳原白蓮

港をば花火に飾る夜となりぬ

湯の町に立つ初秋のため

与謝野 寛

# 別府の うた

やはらかき湯気に身を置く我もよし  
こよひおぼろの月影もよし

九条武子

別府の灯

積重なりて涼しさよ

高浜虚子





地獄のなかでは、血の池地獄と海地獄が妖艶とも神秘とも、なんとも言いやうのない色でした。血の池地獄は底から血の噴き出すやうな色で、透明な湯にとけた、その血の色がまなましく、しかも池に湯気が立ってゐます。海地獄は池の湯が海のやうな色なので名づけられたのでせうが、このやうに澄み通って静かに薄あをい水の色は見たことがありません。町を離れた山の宿の夜ふけに、かうして血の池地獄や海地獄のふしぎな色を思つてみますと、夢幻の世界の泉のやうです。



鉄輪は蒸風呂が特色である。足腰丈夫になって、置土産にした榎木松葉杖が堆く積まれて、湯の功德をた、へて居る。とある大きな石槽に無色透明玉の様な湯が混々と湧いて溢れる。水桶かついだ跣足の女が、かたみがはりにずんぶり桶を浸けては、滴々と汲んで行く。使用湯にするのである。何と云う豊富な天恵であらう。



「続千羽鶴」 川端康成

「はるか下界に、無数の灯がきらめいていた。その一つ一つが、どんなに小さくとも、他の灯と紛れることなく、瞭然とかがやいている。次の瞬間、火花となつてとび散るやうな光り方である。灯の中には、静かに動いているものもあつた。流星のように流れるものもある。観海寺温泉の宿のはなれの縁側から、朝子は別府の夜の光景を眺めていた。……」

「菩提樹」 丹羽文雄

「好いとこだんな」  
「素晴らしいやないか。わいみたいに海のない河内国に生れた人間には、こないなとこで生れた奴が羨しいで」  
「ほんまに。大阪の海かて、あれでは我慢にも褒められまへんよってな」  
「海と山と温泉と。別府はこれからもどない発展するやわからへん」  
「まあ、日本第一の温泉町だしやろ。条件が揃うてま」

「悪名」 今 東光



別府をせ、こまじいと云つたが、それは、こつちのせんで、別府のせんでない事が、いまわかつた。何度も来てゐる所だが、汽船から眺めても、町に泊つても、背後の山嶽地帯が、かう奥深い廻廊へ通じてゐるとは、知らなかつた。観念的に、うしろ

は山と決めてしまつてゐる旅客は、ぼくだけではあるまい。事実、伽藍嶽とか、硫黄嶽とか、由布嶽にしても決してやさしくない山容ではある。だが、峠の城島台へ出ると、もっと意外な視野に出会ふ。そこに高原ホテルを見たり、薄雪をもつた由布嶽の頂きを、肩近くに見出した事もだが、踵を回らすと、九州中部山脈の屋根が一眸にはいつてくる。

「新平家今昔紀行」 吉川英治



# 小説の中の別府



あたたかき海辺の街は春菊を  
既に売りありく霞は遠し

斎藤茂吉

別府市議会議員名簿

議席 番号	氏名	年齢	所属 党派	職業
1	浜田 博	40	社会	団体役員
2	松本雅之	44	〃	団体役員
3	本田行男	44	共産	団体役員
4	白石 昇	52	〃	団体役員
5	伊藤敏幸	31	公明	管工事業
6	二宮金蔵	58	〃	経営管理士
7	松永十七蔵	54	市政	九電社員
8	吉永栄治	38	〃	社会福祉法人職員
9	石崎栄吾	41	社会	貸間業
10	阿野 篤	46	〃	団体役員
11	永野忠彦	49	〃	会社員
12	中島正三	45	公明	製菓業
13	安部 毅	48	〃	団体役員
14	高橋徳一	60	〃	団体役員
15	泉 武弘	34	自民	団体役員
16	三浦悟士	43	〃	商 業
17	首藤 正	44	〃	会社役員
18	青木弘一	46	〃	会社社長
19	佐藤岩男	48	〃	会社役員
20	矢野 彰	45	〃	会社役員
21	荒金信生	33	〃	石油類販売
22	三ヶ尻正友	35	〃	会社社長
23	井上信幸	42	〃	会社役員
24	朝倉 斉	47	〃	会社社長
25	吉富孝夫	51	副議長	農 業
26	首藤節生	57	自民	米穀・石油販売業
27	村田政弘	55	監査委	農 林 業
28	川浪 隆	56	自民	会社役員
29	後藤佐吉	57	〃	会社社長
30	安部 要	68	〃	会社会長
31	生駒昇三	61	〃	会社役員
32	岡部茂人	52	〃	会社役員
33	豊田 実	73	議長	会社役員
34	林 喜代司	57	自民	会社社長
35	上月大八郎	64	〃	会社社長
36	手嶋利勝	67	〃	会社社長



1 浜田 博



2 松本雅之



3 本田行男



4 白石 昇



5 伊藤敏幸



6 二宮金蔵



7 松永十七蔵



8 吉永栄治



9 石崎栄吾



10 阿野 篤



11 永野忠彦



12 中島正三



13 安部 毅



14 高橋徳一



15 泉 武弘



16 三浦悟士



17 首藤 正



18 青木弘一



19 佐藤岩男



20 矢野 彰



21 荒金信生



22 三ヶ尻正友



23 井上信幸



24 朝倉 斉



25 吉富孝夫



26 首藤節生



27 村田政弘



28 川浪 隆



29 後藤佐吉



30 安部 要



31 生駒昇三



32 岡部茂人



33 豊田 実



34 林 喜代司



35 上月大八郎



36 手嶋利勝

# 別府市勢要覧 '80年版

昭和55年3月発行

発行／別府市

大分県別府市千代町1番8号

企画／別府市総務部企画財政課

編集・制作／ユタカデザインセンター

印刷／東洋印刷有限公司

